



福山みらい創造ビジョン

「安心」と「希望」の都市の実現に向けて

2021→2025



はじめに

新型コロナウイルス感染症は、大都市圏における過度な人口集中がもたらす感染拡大のリスクを浮き彫りにしました。また、人々の生活様式のみならず、価値観や行動にまで大きな影響を及ぼすことにもなりました。

一日も早く日常に安心を取り戻すため、何よりもまず、新型コロナウイルス感染症対策を強化します。そして、コロナ禍で生じた個人の価値観の変化などを踏まえる中で、市民の皆様が未来に希望を持って暮らせるよう、福山駅周辺の再生や地域づくりなど都市魅力の創造に注力します。少子化対策や本市の発展を支える人材の育成・確保など人口減少対策も一層強化します。また、これらを支える基盤となる社会のデジタル化を強力に推し進めます。

引き続き、「スピード感・情報発信・連携」を市政運営の基本に据え、現場主義を貫き、誰一人取り残されることのない「安心と希望の都市」の実現に向けて、全力で取り組んでまいります。

ビジョンの策定に当たり、福山みらいづくり懇話会委員の皆様を始め、市民アンケートや市政モニターなどを通じて、多くの貴重な御意見をいただきました。御協力いただきました皆様に心から御礼を申し上げます。

2021年（令和3年）3月

福山市長 枝広 直幹

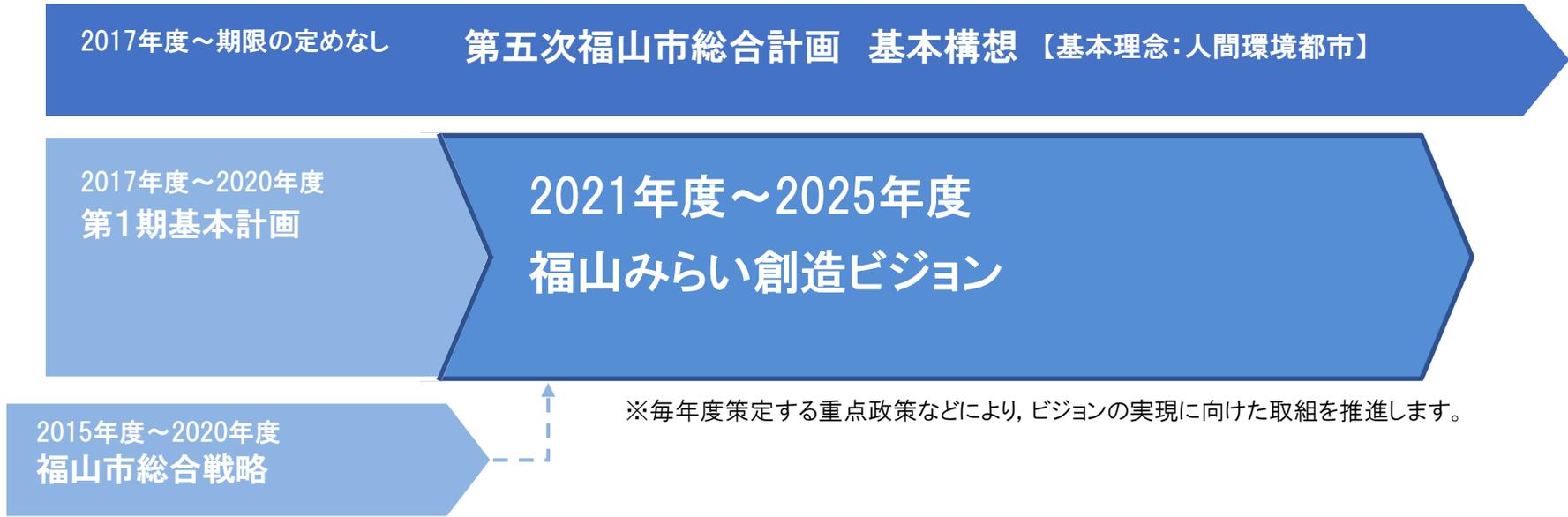


目次

1 趣旨と期間	1
2 社会情勢	2
3 市民ニーズ	10
4 2025年度の福山市	11
5 施策体系(新5つの挑戦)	13
6 市政運営方針(ビジョンの推進に向けて)	14
7 2025年度までに達成すべき指標	16
8 新5つの挑戦の推進	19
挑戦1 福山駅周辺の再生加速とグローバル都市の創造	
挑戦2 希望の子育てと寛容で健やかな社会の実現	
挑戦3 人や企業が安心・安全に活躍できる都市環境の構築	
挑戦4 新たな価値を創出する人材育成と個性光る地域振興	
挑戦5 歴史・文化とスポーツによる新たな体験価値の創出	
9 新5つの挑戦のロードマップ	65

1 趣旨と期間

- 福山市の基本理念は、「人間環境都市」です。この基本理念の下、2017年度から「活力と魅力に満ちた輝くまち」の実現を目標とした、第五次福山市総合計画第1期基本計画を推進してきました。
- 長期化する新型コロナウイルス感染症の影響により、市民生活や経済活動は厳しい状況に置かれています。一日も早くコロナ禍を乗り越えることが、市民生活の「安心」を取り戻し、誰もが未来に「希望」が持てる都市づくりに向けた第一歩となります。
- このため、「福山みらい創造ビジョン」を策定します。これまでの5つの挑戦による市政への変化を確かな成果につなげるとともに、コロナ時代の新しい社会を見据えた都市づくりを進めます。
- なお、本ビジョンは、「福山市総合計画」と「福山市総合戦略」を一本化したものです。

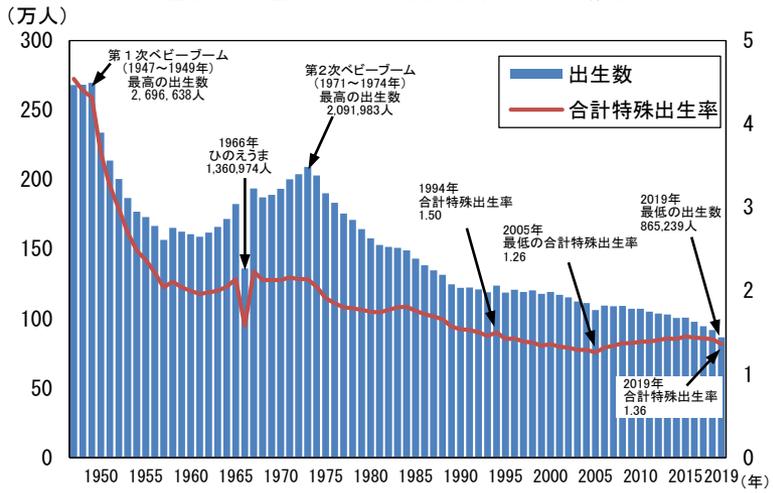


2 社会情勢

(1) 人口減少・少子高齢化の進行

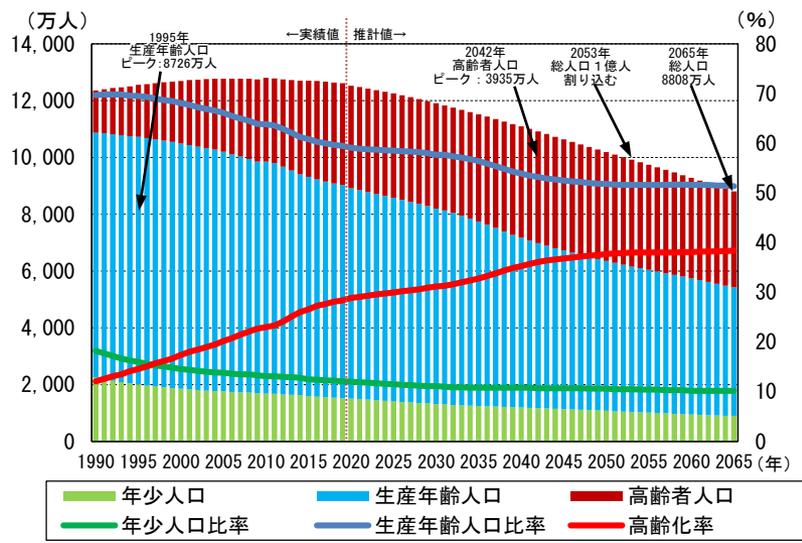
- 日本の総人口は、2040年には1億1,092万人となり、その後も減少を続けると予測されています。
- 生産年齢人口(15～64歳)は2040年に5,978万人まで減少し、ピーク時(1995年)の68.5%となります。
- 高齢者人口(65歳以上)は2042年にピークを迎え、その後は減少に転じ、全年齢階層で人口減少が進みます。
- 2040年代までに、生産年齢人口(現役世代)と高齢者人口の数が急速に近づき、少ない現役世代で高齢者を支える社会が到来します。さらに、85歳以上の人口は高齢者人口の26.0%を占めるまで増加します。
- 人口減少・少子高齢化の進行は、地域の交通や医療・福祉、学校教育の在り方などの様々な分野に影響を及ぼすほか、働き手の減少により経済規模が縮小し、一人当たりの国民所得も低下させるおそれがあります。
- 人口減少に歯止めをかけることは困難であり、人口減少を和らげつつ、人口減少社会に対応した都市づくりを進める必要があります。

図表1：全国の出生数・合計特殊出生率の推移



資料：厚生労働省「人口動態統計」

図表2：全国の人口の推移と長期的な見通し

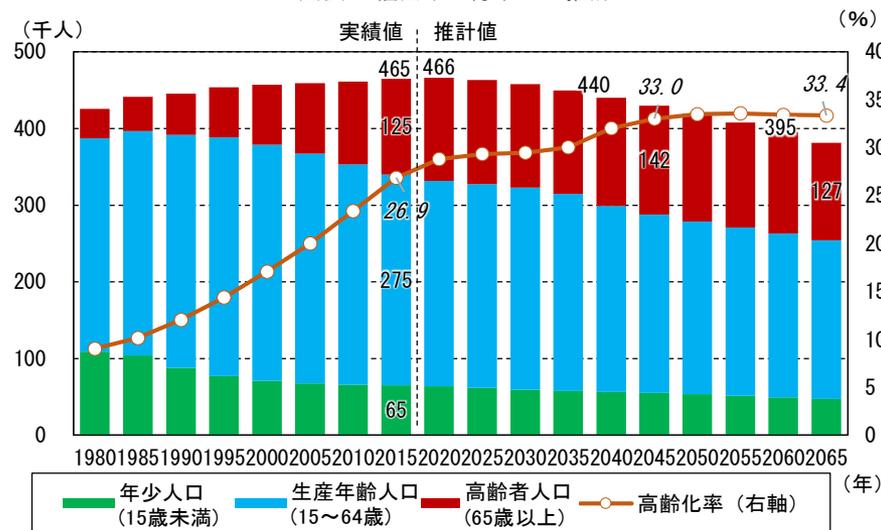


資料：総務省「人口推計」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成29年推計)」

【福山市の現状や方向性】

- 本市の人口は、2015年の国勢調査では464,811人です。
- 国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、人口は、2020年をピークに減少に転じ、2040年には44万人に、2060年には40万人を下回り、39.5万人になると予測されています。
- 年齢3区分別の推計を見ると、年少人口・生産年齢人口は減少を続けます。高齢者人口は2045年にピークを迎え、その後は減少に転じると予測されています。なお、高齢化率については、2045年に33.0%となり、その後も高い水準のまま推移します。医療費の増大や認知症患者の増加も予測されています。
- 合計特殊出生率は、継続して全国や広島県の平均を上回っています。経年で見ると、2005年から2011年までは上昇していましたが、その後はやや低下傾向にあり、近年は1.6台で推移しています。

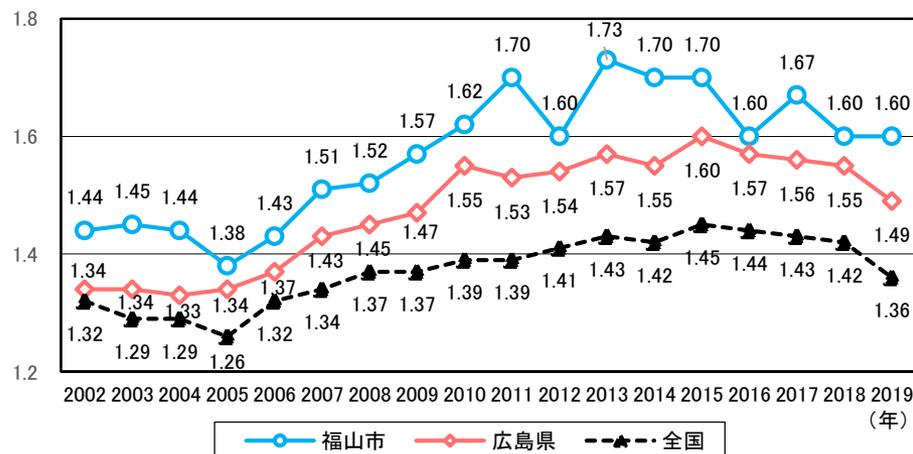
図表3: 福山市の将来人口推計



資料: 総務省「国勢調査」, 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」

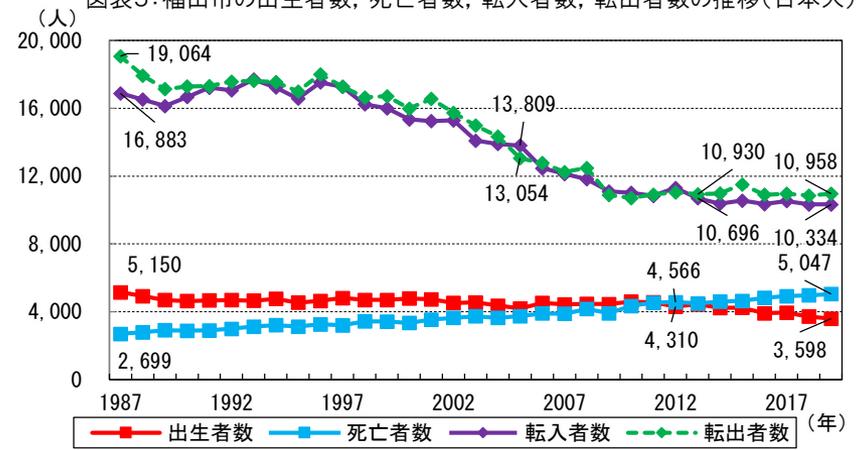
※ 2015年までは国勢調査の実績値(年齢3区分人口は年齢不詳を按分した数値) 2020年以降は推計値

図表4: 福山市の合計特殊出生率の推移



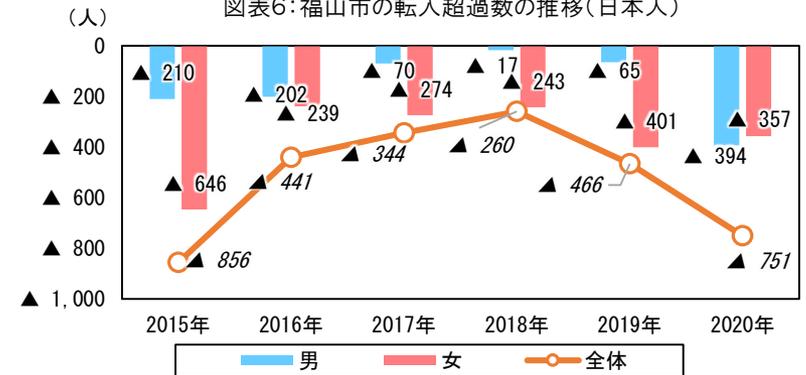
資料: 福山市「福山市人口動態」

図表5: 福山市の出生者数, 死亡者数, 転入者数, 転出者数の推移(日本人)



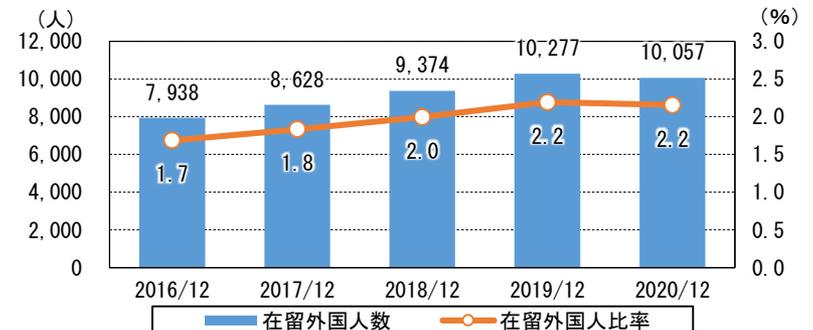
資料: 総務省「住民基本台帳に基づく人口, 人口動態及び世帯」

図表6: 福山市の転入超過数の推移(日本人)



資料: 総務省「住民基本台帳人口移動報告」

図表7: 福山市の在留外国人数と全人口に対する在留外国人比率の推移



資料: 福山市資料

➤ 2012年以降は死亡者数が出生者数を上回る自然減が続き, 加えて2013年以降は転出者数が転入者数を上回る社会減が続いています。

➤ 社会減の状況については, 新型コロナウイルスの感染拡大の状況下にあった2020年を除き, 女性の転出超過が大きい傾向となっています。また, 年齢別に見ると, 20歳代の転出超過が最も大きい状況が続いています。

➤ 外国人住民は年々増加しており, 2019年には1万人を突破しています。

➤ 人口減少が進むことで, 公共交通の利用者が減少し, 維持・確保が厳しくなるなど, 生活利便性が低下することが考えられます。また, 地域の担い手が減り, コミュニティの維持が困難になることが考えられます。

➤ 人口減少を抑制するため, 進学・就職や結婚・出産など人生の転機ごとに設定した政策ターゲット(ペルソナ)※の満足度を高める施策を推進し, 若者や女性から選ばれる都市づくりを進めていきます。

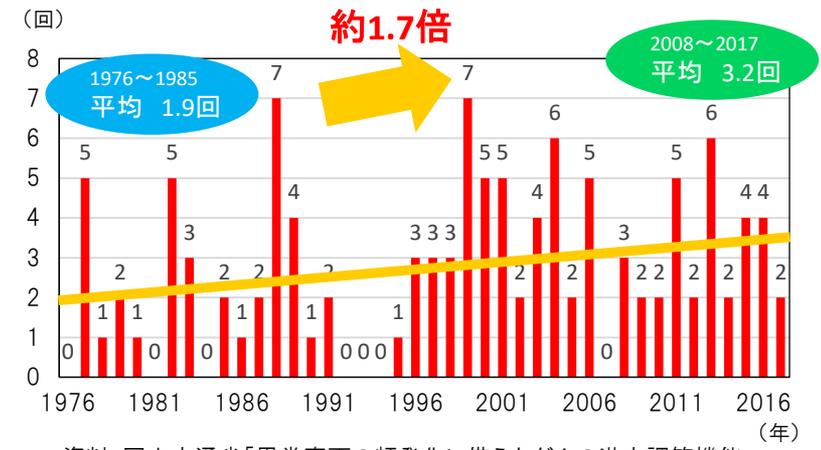
➤ また, 人口減少・少子高齢社会にあっても, 持続可能な都市を形成するため, コンパクト・プラス・ネットワークの考え方を踏まえつつ, 生活に必要なサービスを維持・提供していきます。

※ 新たな人口減少対策アクションプランにおいて, 進学・就職や結婚・出産など人生の転機ごとに「高3進学女子」「子育て共働き女性」などの9つの人物像を設定。

(2) 自然災害や感染症のリスクの増大

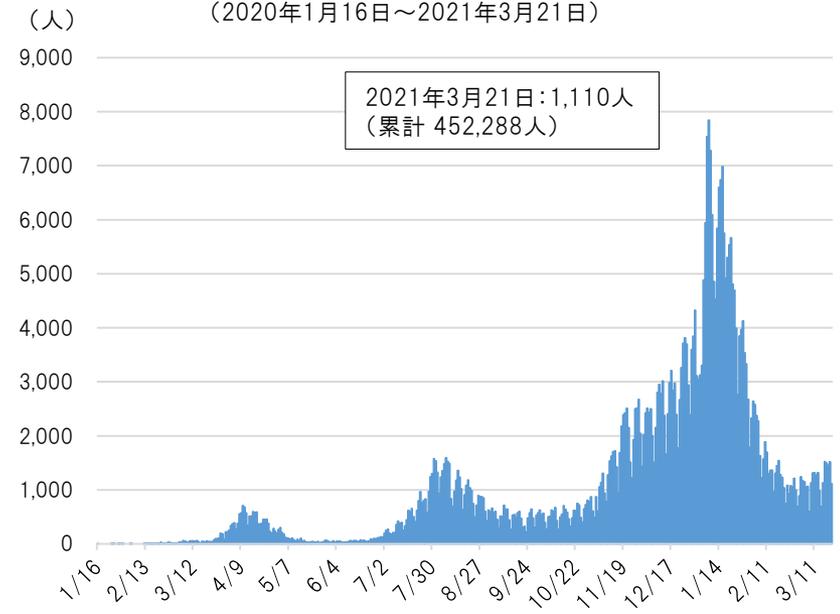
- 近年、全国的に1時間降水量100ミリ以上の豪雨が増加するなど、水害や土砂災害が頻発化・激甚化しています。また、南海トラフ巨大地震については、今後30年以内に70～80%の確率で発生することが予測されるなど、大規模地震災害のリスクも切迫しています。
- 今般の新型コロナウイルスの感染拡大により、感染症へのリスク管理の重要性が高まりました。感染症と自然災害との複合災害への備えも重要となっています。
- 国においては、国民の生命・生活・雇用・事業をしっかりと守り抜くことを最重要の責務として、複合災害に備えた事前防災対策を推進するなど、国民が安心・安全を実感できる社会の実現をめざしています。
- また、豪雨による水害や土砂災害の激甚化に影響を与える可能性のある気候変動への対策として、2050年までに、温室効果ガスの排出をゼロにする脱炭素社会・カーボンニュートラルの実現をめざしています。

図表8: 全国の1時間降水量100ミリ以上の年間発生回数(1,000地点当たり)



資料: 国土交通省「異常豪雨の頻発化に備えたダムの洪水調節機能と情報の充実に向けて」

図表9: 全国の新型コロナウイルス感染症 陽性者数の推移 (2020年1月16日～2021年3月21日)

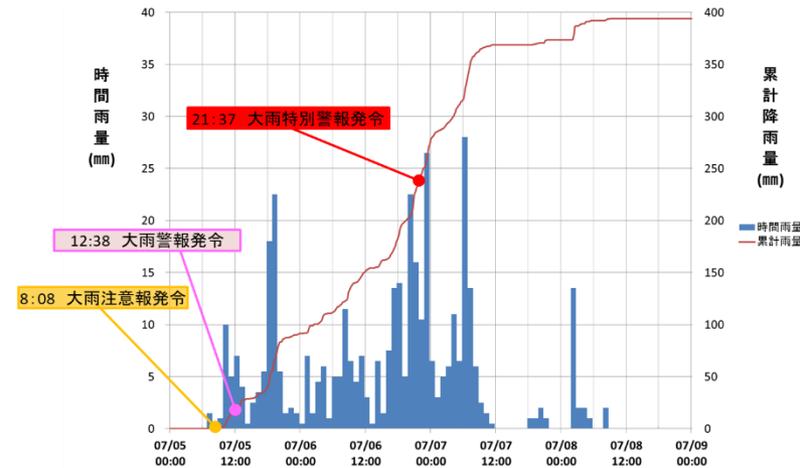


資料: 厚生労働省ホームページ

【福山市の現状や方向性】

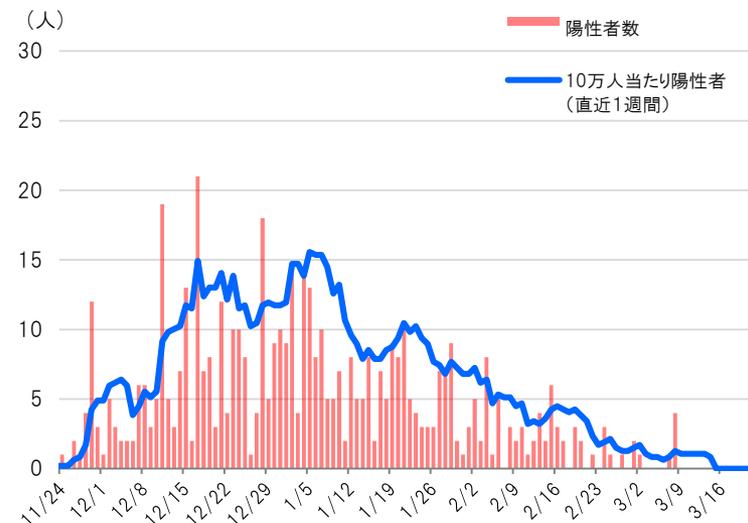
- 平成30年7月豪雨では、市域の約2,000haが浸水し、広範囲に被害が及んだほか、多数ある農業用ため池においては一部堤体の決壊や損壊などによる下流への被害が発生しました。
- 大規模地震は近年発生していないものの、臨海部の埋立地や干拓地においては軟弱地盤の地域があるため、南海トラフ巨大地震などが発生した場合は、被害が深刻になる可能性があります。
- 新型コロナウイルス感染症は、2021年3月時点で、一定程度抑え込めていますが、県内でも変異株の発生が確認されており、感染が再拡大するおそれがあります。
- 自然災害への備えとしては、二度と床上浸水被害を起こさないよう、国・県と連携した抜本的な浸水対策を集中的に実施します。ため池の安全対策にも引き続き注力していくとともに、南海トラフ巨大地震などの大規模地震については、県の被害想定を基本に、防災・減災対策を推進していきます。加えて、災害リスクの低減にもつながる地球温暖化対策として、福山未来エナジー株式会社による再生可能エネルギーの地産地消の推進など、低炭素社会の実現に向けた取組も加速させていきます。
- 新型コロナウイルス感染症対策については、何よりもまず市民の命と健康を守るため、感染拡大防止策の強化と医療提供体制の確保に取り組まなければなりません。そして、感染状況に合わせ、市民の生活支援や中小事業者の事業継続支援を行い、社会経済活動の回復へとつなげていきます。

図表10: 福山市域における平成30年7月豪雨の雨量



資料: 福山市域における浸水対策協議会「福山市域における浸水対策とりまとめ」

図表11: 福山市の新型コロナウイルス感染症 陽性者数の推移



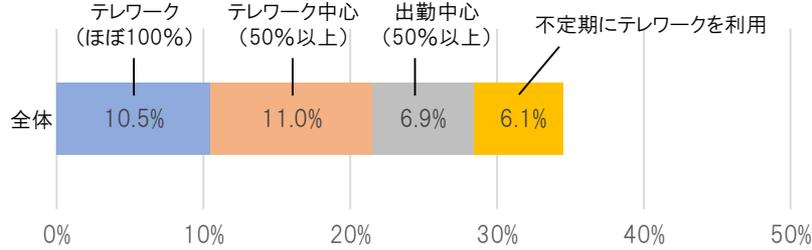
資料: 福山市資料

(3) 新型コロナウイルス感染拡大による社会環境の変化

① ポストコロナにおける「新たな日常」

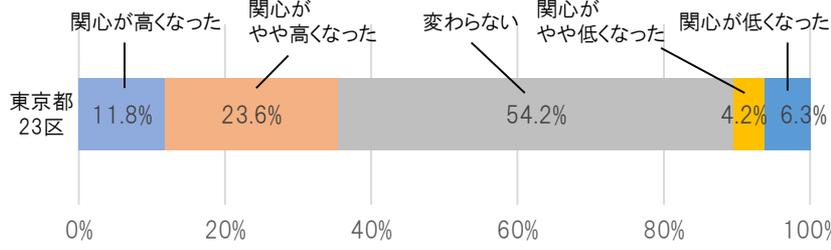
- 新型コロナウイルスの感染拡大により、デジタル化の遅れが顕在化するとともに、大都市圏における過度な人口集中がもたらす感染拡大のリスクや東京への国・企業の中核機能の集中による危機管理・社会経済活動上のリスクが改めて浮き彫りになりました。
- また、新型コロナは、人々の行動・意識・価値観にまで影響を与え、テレワークなど多様な働き方の広がりのほか、地方移住への関心の高まり、非対面型ビジネスモデルへの転換といった新たな潮流を生み出しています。
- 希望する働き方や暮らし方が選択できるよう「新たな日常」をつくり上げ、地方へのひと・しごとの流れを創出していく必要があります。

図表12: 全国の就業者のテレワーク実施状況



資料: 内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査(令和2年6月)」

図表13: 東京23区の20歳代の地方移住の希望の変化



資料: 内閣府「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査(令和2年6月)」

【福山市の現状や方向性】

- 新型コロナの影響により非接触・非対面のサービスへの関心が高まる中、本市においても、行政手続のオンライン化やキャッシュレス決済の導入などを進め、市民サービスの向上を図っています。
- また、働き方の意識の変化を受け、中小事業者へのデジタル化を支援していますが、テレワークなどの多様な働き方の浸透が十分とは言えません。
- 地方での暮らしが注目されているこの機を捉え、テレワークの促進や兼業・副業、ワーケーションの推進により、多様な働き方や暮らし方の実現につなげます。さらに、関係人口の創出・拡大の取組も強化し、本市や備後圏域への新たな人の流れを定着させていきます。

② デジタル技術の進展

- 日本における光ファイバや携帯電話などのインフラについては世界と比較しても高い水準にあるものの、行政や企業などにおけるデジタル技術の活用については諸外国に比べて遅れを取っています。また、デジタル専門人材の不足やグローバル市場での影響力の低下という課題も顕著となっています。
- 顕在化したデジタル化の遅れに対応するため、司令塔としての役割を担うデジタル庁の設置のほか、利用者の価値観を重視するUX(User Experienceの略:ユーザー体験)の考え方を取り入れたデジタル技術の導入などが進められています。
- 5G※¹などの新たなデジタルインフラの整備や社会のデジタルトランスフォーメーション(DX)※²を進めることにより、地方への新たな人の流れや多様な付加価値を創出し、国全体の活力と持続可能性を高めることが期待されています。

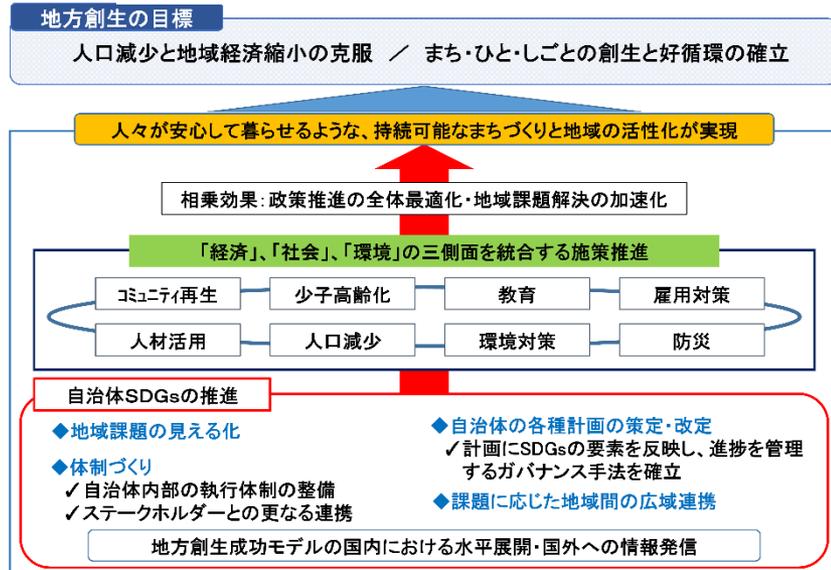
※1 「超高速・大容量」、「超低遅延」、「多数同時接続」といった特徴を持つ次世代の移動通信システムのこと。

※2 ITの浸透が、人々の生活をあらゆる面でよりよい方向に変化させること。

【福山市の現状や方向性】

- デジタル社会の実現は、交通や医療など人口減少・少子高齢社会において地方に共通する課題の解決に資するものであり、本市ではこれまで「まるごと実験都市ふくやま」を掲げ、実証実験の積極的な受入れなどに取り組んできました。
- しかしながら、デジタル専門人材の不足や中小企業のデジタル技術導入の遅れに加え、世代間でのデジタル格差の出現などの課題が顕在化しています。
- 市民のデジタル化の関心度について、2021年1月に実施した市政モニターアンケート調査(16歳以上が調査対象)では、特に「防災・安全」や「医療」、「教育」の分野で高い結果となりました。
- コロナ禍で顕在化した課題や市民ニーズを踏まえるとともに、誰一人取り残さないという視点を持って、産業・地域・行政のデジタル化に本格的に取り組む、企業における新事業の創出や地域課題の解決、市民サービスの利便性向上などにつなげていきます。

図表14: 地方創生における自治体SDGs推進の意義



資料: 内閣府地方創生推進事務局「地方創生に向けた自治体SDGs推進事業について」

③ SDGs推進の機運の高まり

- SDGs(Sustainable Development Goalsの略:持続可能な開発目標)が掲げる「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現は、コロナ禍によって改めて注目されています。
- SDGsは、2030年に向けた世界の羅針盤であり、日本においては、社会・経済・環境の三側面を統合する施策を推進し、持続可能なまちづくりと地域活性化の実現をめざしています。国や自治体、企業、団体、市民などがそれぞれの立場における役割を果たしていく必要があります。

【福山市の現状や方向性】

- 戦後60年以上にわたり、市民が主体となって培ってきたばらのまちづくりは、SDGsの理念にも沿った本市の代表的な取組です。ばらのまちづくりを通じてローズマインド(思いやり・優しさ・助け合いの心)を市民文化として根付かせ、世界に誇れる「ばらのまち福山」の実現に向けて取り組んできました。
- 誰一人取り残されることのない包摂的な社会を実現するため、コロナ禍で懸念される格差拡大の抑制を図るとともに、地域において人の交流が活発で、互いに支え合い、助け合う地域共生社会の構築に取り組みます。
- 地域や企業にSDGsの理念を浸透させ、多様な主体との創意工夫の下、新たな価値が創造される持続可能なまちづくりを進めていきます。

3 市民ニーズ

(1) 市民意識調査における市民の望む福山市の姿

- 2020年3月に実施した行政サービスなどに対する市民意識調査(18歳以上が調査対象)では、全ての年代で「災害に強く、安心・安全に暮らせるまち」が「市民の望む福山市の姿」の上位に挙げられています。
- 転出超過の傾向が続く30歳代以下では、「中心市街地がにぎわい、多くの人が集うまち」や「子育て環境が充実し、希望の子育てが実現できるまち」を望む割合が、他の年代と比べて高くなっています。

図表15:年代別に見た市民の望む福山市の姿

	第1位	第2位	第3位
20歳代以下	中心市街地がにぎわい、多くの人が集うまち	災害に強く、安心・安全に暮らせるまち	子育て環境が充実し、希望の子育てが実現できるまち
30歳代	子育て環境が充実し、希望の子育てが実現できるまち		
40歳代	災害に強く、安心・安全に暮らせるまち	高齢者や障がい者など、すべての人が健やかに、いきいきと暮らせるまち	中心市街地がにぎわい、多くの人が集うまち
50歳代			
60歳代			
70歳代			
80歳以上	高齢者や障がい者など、すべての人が健やかに、いきいきと暮らせるまち	災害に強く、安心・安全に暮らせるまち	暮らしや経済活動を支える公共交通や道路などが整備され、快適に暮らせるまち

(2) 市政モニターアンケート調査における市政への関心度、「安心」と「希望」のイメージ

- 市政への関心度は、「子育て・医療」が90.0%、「産業・防災」が84.4%と高くなっています。
- 「安心」のイメージは、「安定した医療提供体制が確保されたまち」(第1位)、「子育て環境が充実したまち」(第2位)、「自然災害などへの危機管理が万全なまち」(第3位)となっています。「希望」のイメージは、「子育て環境が充実したまち」(第1位)、「働く・住む・にぎわいが一体となった福山駅前」(第2位)、「地域経済が活性化しているまち」(第3位)となっています。

4 2025年度の福山市

(1) めざす姿

新たな分散型社会の下で、 市民一人一人の安心な暮らしと希望が実現する都市

をめざします。

- 国や全国の地方都市はこれまで、東京一極集中の是正と地方分散型の社会をめざし、地方創生に取り組んできましたが、実態は首都圏だけでなく一部の政令市にも人口が集中する少極集中の状況になっています。
- 新型コロナウイルス感染症によるパラダイムシフト(これまで当たり前だと考えられていた価値観や概念が大きく変化すること)が、真の地方創生への活路を見いだす契機となっています。
- 今後は、デジタル化の推進などにより、大都市圏等から人や企業を呼び込む環境をつくとともに、誰もが柔軟にライフスタイルを選択できる、新たな分散型社会の実現をめざします。
- この「新分散型社会」を全国に先駆けて実現し、国全体が多極集中※へ向かう中で、福山市が一つの“極”となるべく、他の都市圏の人や企業との連携も円滑にできる環境づくりを進めます。備後圏域の玄関口である福山駅周辺を、圏域外から人や企業をひき付ける拠点性の高い都市空間にしていきます。同時に、新たに策定する地域戦略において、個性豊かで活力ある地域づくりを進めていきます。これらにより、市域のあらゆる場所で心豊かな暮らしが実現できる魅力的な都市を創造していきます。
- 本格的な人口減少時代を迎えるからこそ、コロナ後の社会を予見し、適応していくことで、市民一人一人の安心な暮らしと希望が実現する都市をめざします。

※ 大都市圏から地方都市へと人の流れを生み、定着させる“極”となる都市・地域が全国に幅広く分布しており、その中心部は歩いて楽しめるコミュニティ空間になっている状態のこと。

(2) 実現に向けた方向性

3つの柱

① 新型コロナウイルス感染症対策の強化

感染拡大防止策の強化や医療提供体制の確保に取り組むとともに、市民の生活支援や中小事業者の事業継続支援を切れ目なく行っていきます。

② 都市魅力の創造

コロナ禍で変容した行動や価値観に適応し、災害に強く、安心・安全で多様性に富んだ、にぎわいのある都市づくりを進めます。そして、市民一人一人が希望するライフスタイルを選択でき、高い満足度と心の豊かさを得ることができる将来にわたって発展し続ける都市をめざします。

③ 人口減少対策の強化

子育て世帯が安心して子どもを産み育てられ、次代を担う子どもたちが未来に希望をもって成長できるとともに、誰もが健康寿命が長く、元気に暮らすことができる都市をめざします。また、人口減少・少子高齢社会に的確に対応できるよう、持続可能な行政サービスを実現します。

3つの柱を支える基盤

社会のデジタル化の推進

誰もが安心して暮らすことができ、地域経済に活力を与え、希望あふれる都市に向け、デジタル化の推進体制を強化します。産業・地域・行政の3分野において、戦略的にデジタル化を推進します。

5 施策体系(新5つの挑戦)

2021年度からの5年間、めざす姿を実現するため、各施策を総合的に推進します。

新5つの挑戦

挑戦1 福山駅周辺の再生加速とグローバル都市の創造

- 福山駅周辺の玄関口機能の強化
- 戦略的な観光振興
- MICEの推進(世界バラ会議)

挑戦2 希望の子育てと寛容で健やかな社会の実現

- 福山ネウボラの強化
- 医療提供体制の強化
- 人生100年時代の健康づくりと感染症対策の強化
- 福祉の充実

挑戦3 人や企業が安心・安全に活躍できる都市環境の構築

- 循環型地域経済の形成
- 都市基盤の強化
- 安心・安全な暮らしの確保
- 多様な働き方と新たな人の流れの創出
- 防災・減災の推進
- 環境にやさしいまちづくり
- 農林水産業の振興

挑戦4 新たな価値を創出する人材育成と個性光る地域振興

- 未来を切り拓く教育
- 多様性ある地域コミュニティづくり

挑戦5 歴史・文化とスポーツによる新たな体験価値の創出

- 歴史・文化の薫るまちづくり(福山城築城400年)
- スポーツによるにぎわいづくり

6 市政運営方針(ビジョンの推進に向けて)

(1) 市政運営の基本

「スピード感」「情報発信」「連携」

現場主義の徹底

＜市民の声を政策に反映＞

＜地域の特性を生かしたまちづくり＞

成果主義の徹底

＜最少の経費で最大の効果を発揮＞

(2) 市政運営の基盤づくり

① 時代の変化に対応した施策の構築

- 限られた資源を有効かつ効率的に活用し、市民ニーズの変化に的確に対応していくため、優先度、公と民の役割分担、受益と負担の公平性、費用対効果などを根拠に基づき多角的に検証し、施策・事業や公共施設等サービスの再構築を行います。

② 組織の総合力の強化

- 簡素で効率的な組織体制を基本に、時代の変化に対応した政策の立案・実施や横断的な連携を行うことができる体制を構築します。
- 多様な行政課題に果敢に挑戦し、情勢の変化に対応できる職員を育成するとともに、強化すべき分野に外部の専門人材を活用します。

③ 行政のデジタル化

- 市民の利便性の向上やサービスの充実、行政内部事務の効率化・スマート化の実現のため、デジタル技術の積極的な活用による行政のデジタル化を進めます。

④ 財源の確保

- 持続可能な財政の維持・構築に向けて、市税などの収納率の向上やネーミングライツによる既存財産を活用した収入の拡大等、多様な歳入確保策に取り組みます。

⑤ 連携

- 国・県との連携を強化し、施策効果を高めます。また、備後圏域の中核都市として、圏域内の市町や産学金官民との連携により、圏域の一体的な発展をけん引します。

⑥ 共創

- まちづくりの主役である市民一人一人が活躍できる環境づくりや市民の声を政策立案に生かす取組を行います。
- SDGsへの理解を深め、ばらのまちづくりに代表される協働の取組などを更に発展させ、多様な主体と共に創意工夫の下、新たな都市の魅力や地域の価値を創造します。

7 2025年度までに達成すべき指標

(1) 目標人口

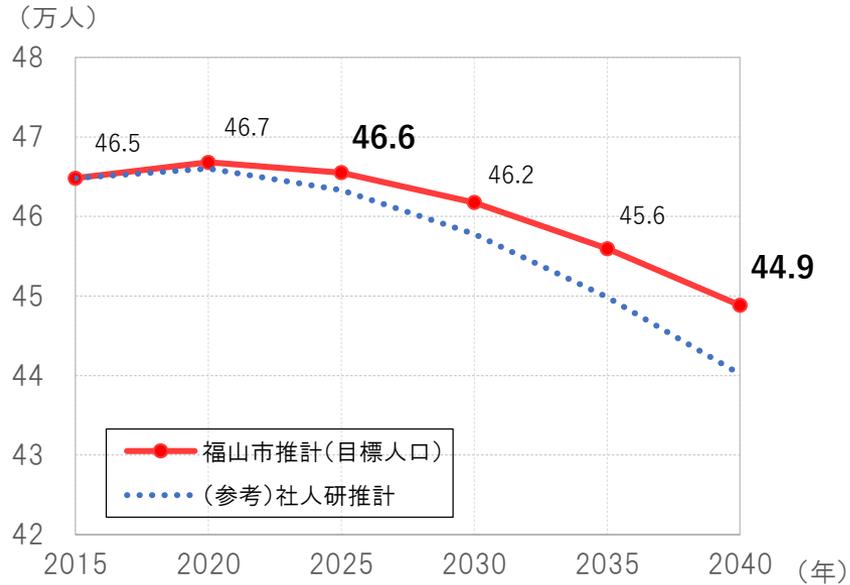
2015年 46.5万人(国勢調査)

▼

目標人口

2025年 46.6万人 2040年 44.9万人

図表16: 将来人口推計比較

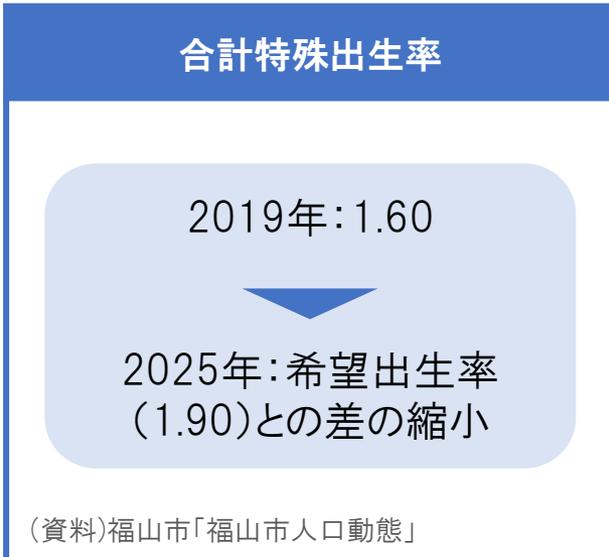
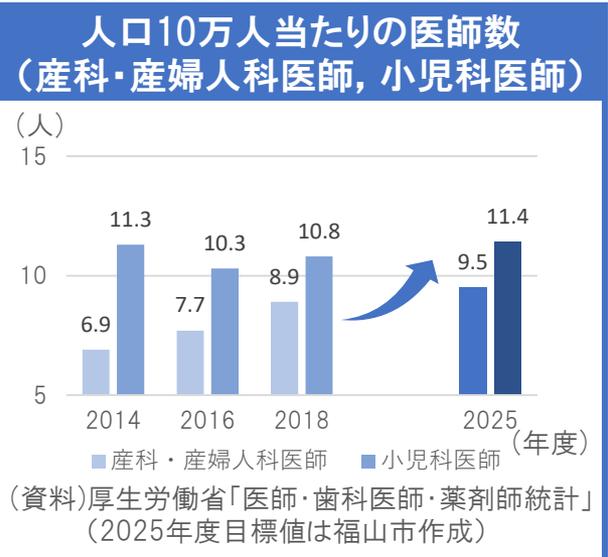


	2015年 (実績値)	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
福山市推計 (目標人口)	464,811	466,797	465,512	461,761	455,951	448,823
(参考)社人研推計	464,811	465,995	463,315	457,805	449,848	440,169

資料: 国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」
 ※ 将来推計人口は既存人口に出生率や移動率, 死亡率(生残率)を5歳階級別に乘じて算出するコーホート要因法による。
 福山市推計は国立社会保障・人口問題研究所(社人研)の推計で設定された移動率, 死亡率(生残率)を用い, 出生率の現状値が2040年に市民希望出生率の1.90まで上昇し, それ以降はこの水準を維持すると設定して推計。

(2) 「安心」と「希望」の都市づくりにおいて注視する指標

新5つの挑戦に掲げる目標指標のうち、特に注視すべき指標を定め、「安心」と「希望」の都市づくりの達成状況を把握します。



※ 福山駅周辺デザイン計画に示すウォークブルエリア内の主要な道路などのうち、居心地が良く、歩きたくなる空間に向けて整備又は規制の見直しを行う道路等の延長の割合

8 新5つの挑戦の推進

挑戦1 福山駅周辺の再生加速とグローバル都市の創造

柱

- 1-1 福山駅周辺の玄関口機能の強化
- 1-2 戦略的な観光振興
- 1-3 MICEの推進(世界バラ会議)

1-1 福山駅周辺の玄関口機能の強化

【目標とする姿】 働く・住む・にぎわいが一体となった福山駅前

【現状認識と対策】

- 再生に向けた機運醸成やエリア価値向上の取組により、新たな民間投資やまちづくりを志す人材・組織が生まれ始めています。
- 民間主導の官民連携による新たな公共空間の活用により、福山駅周辺を若者や女性など多様な人々にとって居心地良く、歩いて楽しい空間へと転換し、更なる民間投資を呼び込みます。
- 福山駅周辺の再生だけでなく、周辺地域との連携により、市域全体の経済の好循環を生み出し、更には備後圏域の一体的な発展もめざします。
- 福山城築城400年記念事業や世界バラ会議福山大会2025の開催を見据え、世界中から集まる人々におもてなしを提供するとともに、本市と世界をつなぐ玄関口としての機能を強化します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

未来を切り拓くプレイヤーの育成

- 人や産業、情報が交流する場の形成
- 都市再生推進法人や家守事業者など自立したまちづくり組織の設立促進
- 福山駅周辺と周辺地域の産業・資源をつなぐ人材の発掘・育成
- 若者や女性の就業・創業支援

居心地の良いウォーカブルな都市空間の整備

- 福山駅前広場の再編
- 道路や広場、福山城公園など公共空間の新たな活用の促進
- 世界バラ会議に向けた都市空間づくり
- エリアMICE※の推進(再掲)
- 備後圏域の拠点にふさわしい交通ネットワーク機能の強化

※ MICEのための大型施設を前提とせず、市内に点在する既存の文化施設や民間施設などをエリアで捉えた、市内周遊型MICEのこと。

【目標指標】

福山駅周辺のウォーカブルエリア内の歩行空間の割合

2020年度：約50%

2025年度：約60%

(参考)2029年度：約80%
2039年度：100%

(資料)福山市資料

伏見町・三之丸町・東桜町・元町の従業者数

2016年：7,216人

2024年：7,600人

(資料)総務省・経済産業省「経済センサスー基礎調査」「経済センサスー活動調査」
(2024年目標値は福山市作成)

伏見町の流動客数



(資料)福山市・福山商工会議所「流動客調査報告書」
(2025年度目標値は福山市作成)

【達成をめざすSDGs】



【にぎわいの日常化】

【主な関連計画】
・福山駅前再生ビジョン
・福山駅周辺デザイン計画

・福山駅北口広場整備基本方針
・福山市立地適正化計画

1-2 戦略的な観光振興

【目標とする姿】 魅力と特色ある観光資源により、国内外から多くの観光客をひき付けている

【現状認識と対策】

- 総観光客数の増加に向け、「鞆の浦・福山城・ばら」の3大リーディングを中心とした観光資源の更なる磨き上げや戦略的なプロモーションに取り組むとともに、備後圏域内の観光資源を結びつけることで、魅力ある圏域づくりを進め、観光客の周遊促進にもつなげます。
- 横ばいの状態が続く観光消費額の増加に向け、福山ならではの食や文化、自然が満喫できる体験型コンテンツを創出するほか、開放的な環境でゆったりくつろげる滞在型観光を推進します。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、訪日外国人旅行者数は大きく落ち込んでいますが、世界バラ会議福山大会2025や大阪・関西万博などを見据え、外国人観光客の誘致や受入環境の整備に取り組みます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

観光資源の発掘・磨き上げと発信

- 食ツーリズムなど新たな観光コンテンツの創出
- 周遊しやすい広域観光の推進
- 体験・滞在型観光の推進
- データに基づく戦略的なプロモーションの推進
- ユニークベニュー※1の開発・活用(再掲)
- ワークーション※2の推進

外国人観光客の受入環境の向上

- 多言語対応の充実(再掲)
- MICEのプレ・ポストプログラム※3の充実(再掲)
- ICTサービスを活用した受入環境の充実
- 旅ナカ※4の情報発信の充実

※1 博物館・美術館、歴史的建造物、寺社仏閣、城郭、屋外空間(庭園・公園、商店街、公道等)などで会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のこと。

※2 仕事(Work)と休暇(Vacation)を組み合わせた造語。本市では、仕事と休暇だけでなく、産業界や地域との交流(Communication)や、それを通じた新しいアイデアの創造(Innovation)までをめざす取組のこと。

※3 MICE開催前後で実施される行事やイベント又は自由行動としてのショッピングや娯楽などの活動のこと。

※4 旅マエ、旅ナカ、旅アトという訪日観光客の旅行シーンを三つに分ける考え方の一つ。旅ナカは、旅行者が実際に旅行先を訪れている期間のこと。

【目標指標】

総観光客数

2019年:6,296千人
 2025年:6,600千人

(資料)広島県「広島県観光客数の動向」
 (2025年目標値は福山市作成)

観光消費額



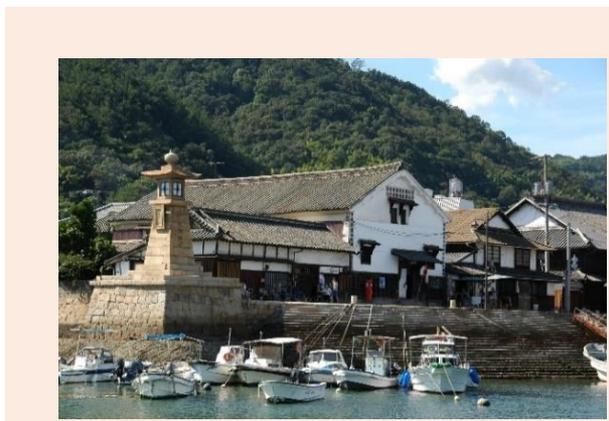
(資料)広島県「広島県観光客数の動向」
 (2025年目標値は福山市作成)

外国人観光客数

2019年:64千人
 2025年:87千人

(資料)広島県「広島県観光客数の動向」
 (2025年目標値は福山市作成)

【達成をめざすSDGs】



【鞆の浦】



【福山城】

【主な関連計画】 ・第2次福山市観光振興ビジョン
 ・ひろしま観光立県推進基本計画

・第20回世界バラ会議福山大会2025実施計画

1-3 MICEの推進(世界バラ会議)

【目標とする姿】 MICEを通じて新たな価値を創出・発信し、地域経済に活力を与えている

【現状認識と対策】

- MICE(企業会議や大会, 研修会, 展示会, 国際会議などのビジネスイベントの総称)は, 宿泊や飲食, 交通など複数の分野への経済波及効果が期待されます。そのため, 官民が一体となってMICE誘致に向けた取組を強化します。
- 本市で開催されたMICEは, 年間平均20件, スポーツ大会を含めると平均60件です。今後, 2022年の全国藩校サミット福山大会や2025年の世界バラ会議福山大会が予定されており, それぞれの実行委員会と連携し, 開催に向けた取組を推進します。
- MICEの誘致・開催に向け, 受入体制・インフラの整備に取り組むとともに, 市内に点在する既存の文化施設や民間施設などを活用した, 市内周遊型のエリアMICEを推進します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

産業MICE・エリアMICEの推進

- 産業MICEネットワークの構築による誘致促進
- エリアMICE推進に向けた会場などの磨き上げ
- ユニークベニューの開発・活用
- MICEのプレ・ポストプログラムの充実

推進体制の構築・人材育成

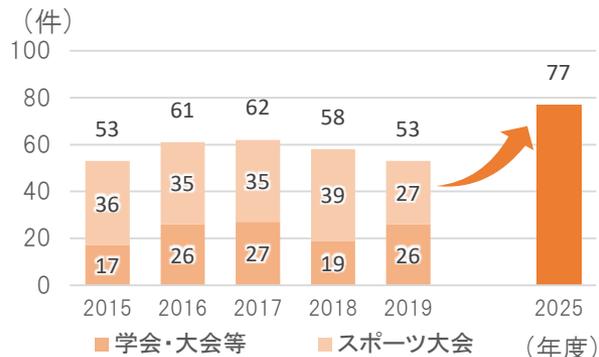
- 官民連携によるワンストップ窓口など受入体制の構築
- 福山MICEサポーターの育成

国際MICEの誘致促進

- 福山城築城400年・世界バラ会議を通じた国内外への多様な魅力の発信
- (仮称)ふくやま国際MICEプログラムの開発
- 多言語対応の充実

【目標指標】

MICE開催件数



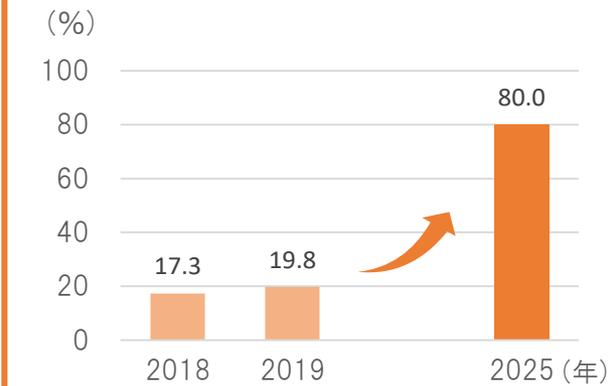
(資料)福山観光コンベンション協会「コンベンション事業報告書」
(2025年度目標値は福山市作成)

MICEの運営やおもてなしにボランティアで関わる市民の数

2025年度までの累計
100人

(資料)福山市資料

世界バラ会議福山大会開催の市内認知度



(資料)福山市「福山市情報発信に係るインターネット調査」

【達成をめざすSDGs】



【他都市での国際会議】



【世界バラ会議デンマークコペンハーゲン大会】

【主な関連計画】 ・福山市MICE戦略
・福山城築城400年記念事業基本方針

・第20回世界バラ会議福山大会2025実施計画

挑戦2 希望の子育てと寛容で健やかな社会の実現

柱

2-1 福山ネウボラの強化

2-2 人生100年時代の健康づくりと感染症対策の強化

2-3 医療提供体制の強化

2-4 福祉の充実

2-1 福山ネウボラの強化

【目標とする姿】 希望の子育てが実現し、全ての子どもたちが健やかに成長している

【現状認識と対策】

- 本市の合計特殊出生率は1.6台で推移し、国や県の平均を上回っていますが、出生数は年々減少しています。
- 希望の子育てを実現するため、子育てと仕事の両立などの多様な課題に対応し、子育ての不安・負担を軽減します。
- 学び・体験の場など、子どもや保護者が明るい未来を描ける環境づくりに取り組みます。
- 児童虐待の相談・通告件数は年々増加していることから、子どもを守るための切れ目のない支援を行います。
- ひとり親家庭などが抱える悩みや不安を軽減し、就業や子育て、子どもの学習などに対する支援を行います。

【目標達成のための方向性と主な取組】

妊娠期からの切れ目のない総合的な支援体制の充実

- ・産前・産後のサポート体制の充実
- ・周産期・小児救急医療体制の充実(再掲)
- ・オンライン子育て相談の充実
- ・相談窓口「あのね」の利便性向上
- ・不育症・不妊治療への支援

子育て世代が将来の展望を描ける環境づくり

- ・子どもの生きる力を育成する教育環境の整備
- ・働き方改革や職場の意識改革の促進(再掲)
- ・子ども未来館構想の推進(再掲)
- ・ライフデザイン・キャリアデザインの支援
- ・子育て家庭が集える場づくり

子どもの豊かな成長を支える保育の充実

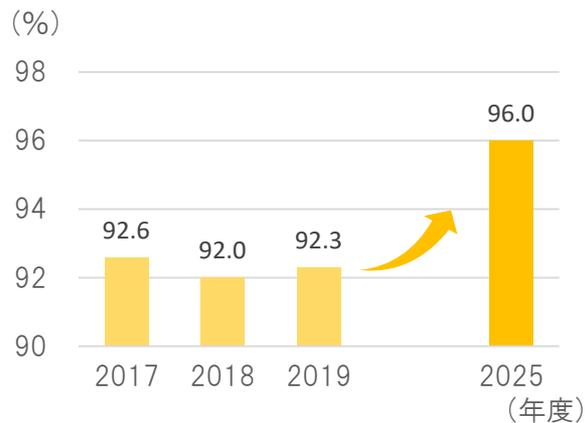
- ・デジタル技術を活用した保育環境整備と保育人材確保
- ・働き方に応じた保育の提供

援助を必要とする子どもや家庭への支援

- ・子ども家庭総合支援拠点を中心とした児童虐待防止対策の充実
- ・発達に課題のある子どもなどの相談・支援体制の充実
- ・ひとり親家庭の自立支援と子どもの貧困対策の推進

【目標指標】

「この地域で子育てをしたい
と思う親」の割合



(資料)福山市資料

男性の育児休業の取得率

2025年度:30.0%

(参考)2019年度:9.2%※

※「広島県職場環境実態調査」の福山市の数値を参考値として記載

合計特殊出生率

2019年:1.60

2025年:希望出生率
(1.90)との差の縮小

(資料)福山市「福山市人口動態」

【達成をめざすSDGs】



【福山ネウボラによる切れ目のない子育て支援】

【主な関連計画】・福山市ネウボラ事業計画
・ふくやま健康フクイク21いきいきプラン2018

・福山市地域福祉計画2017
・第二次福山市教育振興基本計画

・福山市男女共同参画基本計画(第4次)
・福山市障がい者プラン

2-2 人生100年時代の健康づくりと感染症対策の強化

【目標とする姿】 人生100年時代において、住み慣れた地域で健康に暮らしている

【現状認識と対策】

- 本市の特定健康診査の受診率や運動実施率は低いため、データを活用した健康意識の向上や生活習慣の改善に取り組みます。
- 健康と要介護の中間の状態であるフレイルに早期に気づき、デジタル技術を活用した健康状態の見える化による最適な予防の取組を促進し、市民の健康寿命の延伸につなげます。
- 一人暮らしの高齢者を始め、高齢者のみの世帯や認知症高齢者が増加しています。住み慣れた自宅や地域で自分らしく暮らすことができるよう、医療と介護が密接に連携した切れ目のない支援体制を構築します。また、介護人材の確保・定着にも取り組みます。
- 新型コロナウイルス感染症などの健康危機に対して、平常時からの備えと健康危機が発生した場合の体制を強化することで、市民の生命と健康を守ります。

【目標達成のための方向性と主な取組】

次世代ヘルスケアの推進

- 行動変容を促すデータヘルスの推進(PHR※の活用)
- 企業の健康経営の促進(再掲)
- こころの健康づくりの推進
- 医療・介護の連携強化(地域包括ケアシステムの実現)
- 介護現場でのデジタル技術の活用促進
- 介護人材の確保・定着

福山版フレイル予防の推進

- フレイル予防対策の強化
- デジタル技術を活用した健康状態の見える化
- 社会参加や地域貢献などの生きがいづくりの充実

新たな感染症の発生時などにおける健康危機管理体制の強化

- 感染症発生時における検査・医療提供体制の強化
- 感染症に関する知識の普及・啓発と予防接種の勧奨
- 食品衛生の正しい知識の普及・啓発
- 食品の製造・加工・調理段階における監視指導の実施

※ Personal Health Recordの略。個人が自らの保健医療情報を活用し、生活習慣の改善などの行動変容や健康増進につなげていくための仕組みのこと。

【目標指標】

平均寿命と健康寿命の差

2017年

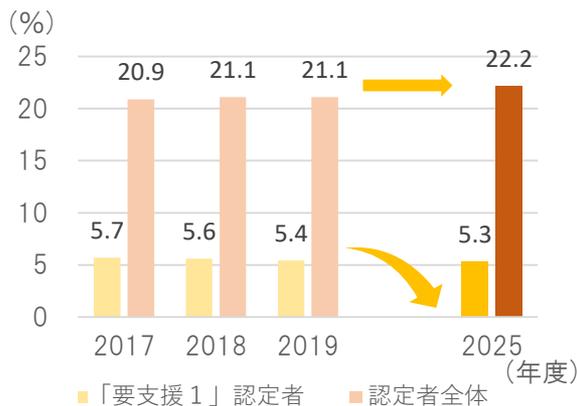
男性 1.26年
女性 2.81年

平均寿命 80.72年 87.13年
健康寿命 79.46年 84.32年

2025年:縮減

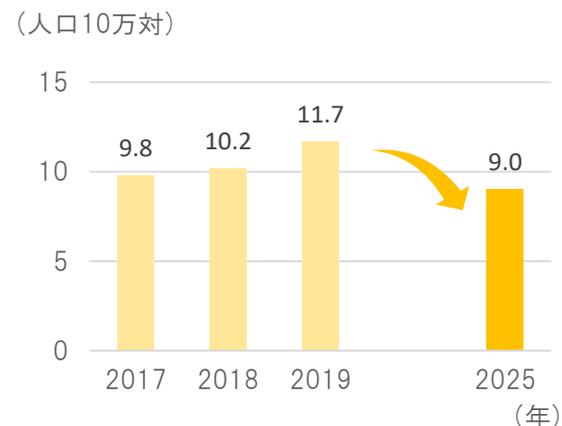
(資料)福山市資料

要介護(要支援)認定率



(資料)福山市資料

結核り患率



(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【運動を通じた健康づくり】



【感染症への備え】

- 【主な関連計画】
- ・ふくやま健康フクイク21いきいきプラン2018
 - ・福山市健康増進計画2018追補版 福山市フレイル予防推進計画2020
 - ・福山市高齢者保健福祉計画2021

- ・福山市地域福祉計画2017
- ・福山市新型インフルエンザ等対策行動計画
- ・福山市食品衛生監視指導計画

2-3 医療提供体制の強化

【目標とする姿】 質が高く、安定した医療提供体制が確保されている

【現状認識と対策】

- 福山・府中二次保健医療圏には、大学医学部がないため、医師確保は圏域外の大学からの派遣に頼らざるを得ない状況です。
- 特に、産科・産婦人科医師と小児科医師が少なく、厚生労働省が示す医師偏在指標は「医師少数地域」となっています。医師としてのキャリア形成に有効な環境の整備や働き方改革などによる医療機関の魅力向上を推進し、医師の確保・定着につなげます。
- 本市は、井原・笠岡地域の急性期や救急、回復期の患者の入院先であり、分娩機能や小児救急の中心的な役割も担っています。しかしながら、周産期に係るハイリスク分娩については、倉敷市などへ搬送する場合があります。
- 本市の基幹病院の一つである福山市民病院については、広域的な医療拠点として貢献できるよう、総合周産期母子医療センターの指定に向けた機能強化などを進めます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

戦略的な医療政策の実施

- 周産期・小児救急医療体制の充実
- 医療人材の定着・確保に向けた大学医学部などとの連携強化

広域連携による地域医療体制の確保・充実

- 拠点病院と中規模病院などの連携による研修機能の充実
- 女性医師やシニア医師が活躍できる環境の整備
- 先端技術等を活用したマンパワー補完対策などの実証実験の推進
- 地域医療を担う看護職員の育成・確保
- 初期救急医療提供体制の確保

福山市民病院の増改築整備

- 周産期・小児救急医療体制の充実(再掲)
- がん医療・救急医療・高度専門医療の機能強化

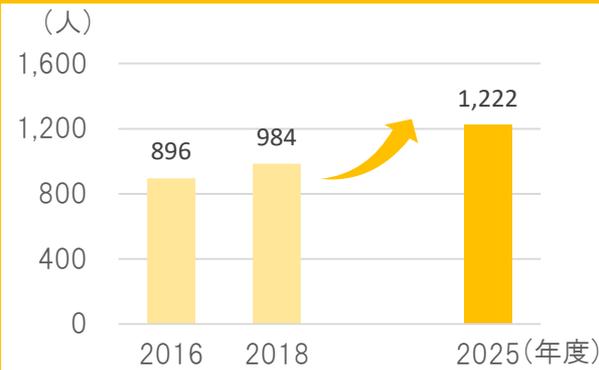
【目標指標】

人口10万人当たりの医師数 (産科・産婦人科医師, 小児科医師)



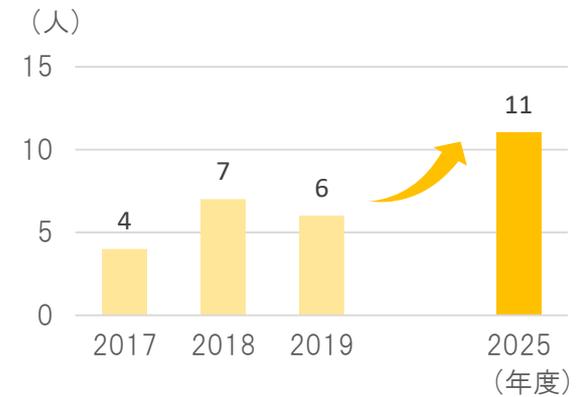
(資料)厚生労働省「医師・歯科医師・薬剤師統計」
(2025年度目標値は福山市作成)

人口10万人当たりの看護師数



(資料)広島県「保健師, 助産師, 看護師及び准看護師の業務従事者届」
(2025年度目標値は福山市作成)

小児科医師数 (福山市民病院)



(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【看護師確保に向けた復職支援】



【福山市民病院の医療提供体制】

- 【主な関連計画】
- ・広島県保健医療計画
 - ・広島県地域医療構想
 - ・広島県保健医療計画別冊 医師の確保及び外来医療に係る医療提供体制の確保に関する計画
 - ・福山市民病院改革プラン

2-4 福祉の充実

【目標とする姿】 **誰もが互いに支え合い、安心して自立した生活を送っている**

【現状認識と対策】

- 人口減少・少子高齢化が進む中で、社会保障制度の持続的な運用が求められています。そのため、各種保険制度の効果的な連携や医療費の適正化による健全運営に取り組みます。
- 「障がい者アンケート調査(2019)」によると、「障がい者に対する地域の人々の理解が進んでいない・以前と変わらない」と回答した人が6割を占めています。誰もが支え合い、安心して暮らせる地域共生社会の実現に向けて、相互理解の促進に取り組みます。
- 同アンケートによると、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」や「相談支援の充実」も求められています。地域で安心して自立した生活を送るため、総合的な相談支援体制の強化やニーズに対応した福祉サービスの提供に取り組みます。
- 生活に困窮する市民からの相談に対して適切な就労支援などを行い、経済的自立に向けた支援に取り組みます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

障がい者に対する理解促進と支援体制の強化

- ・ 障がい者への理解促進(地域共生社会の実現)
- ・ 相談支援体制や福祉サービスの充実など地域における生活支援体制の強化
- ・ 疾病予防・早期発見・早期治療につなげる支援体制の強化
- ・ ニーズに応じた療育・保育・教育内容の充実
- ・ デジタル技術の活用などによる障がい者の就労支援

保険制度の健全な運営

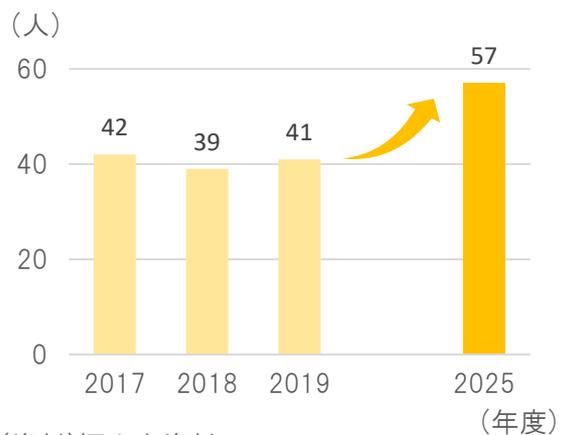
- ・ 後発医薬品の使用拡大などによる医療費の適正化
- ・ 収納率向上対策の推進

自立支援の推進

- ・ 生活保護受給者や生活困窮者の自立支援の強化

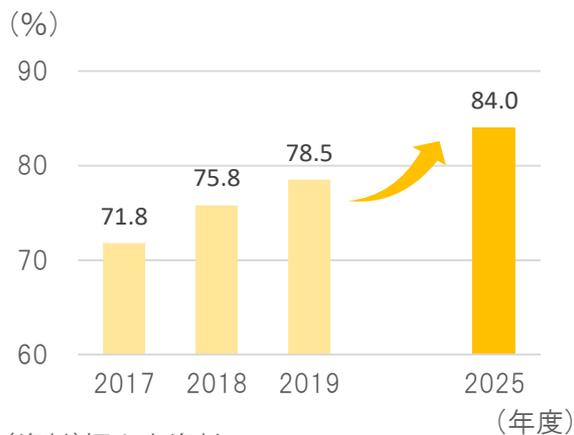
【目標指標】

福祉施設から
一般就労への移行人数



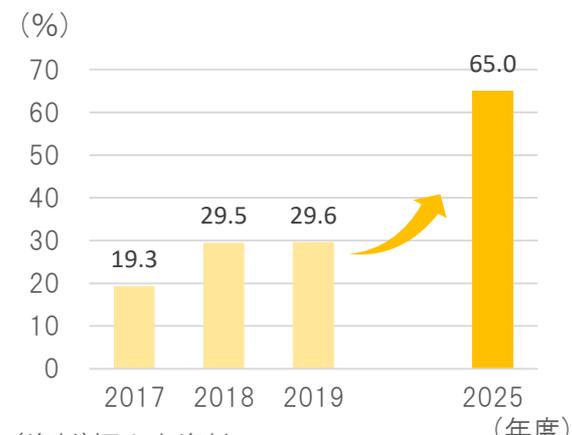
(資料)福山市資料

後発医薬品の使用率
(国民健康保険)



(資料)福山市資料

被保護者の就労支援
プログラム参加率



(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【障がい者の就労支援】

【主な関連計画】
・福山市地域福祉計画2017
・福山市障がい者プラン

・福山市国民健康保険第2期データヘルス計画
第3期特定健康診査等実施計画

挑戦3 人や企業が安心・安全に活躍できる都市環境の構築

柱

3-1 循環型地域経済の形成

3-2 多様な働き方と新たな人の流れの創出

3-3 農林水産業の振興

3-4 都市基盤の強化

3-5 防災・減災の推進

3-6 安心・安全な暮らしの確保

3-7 環境にやさしいまちづくり

3-1 循環型地域経済の形成

【目標とする姿】 産業の生産性と付加価値が高まり、地域経済の好循環が生まれている

【現状認識と対策】

- 本市は、優れた技術・ノウハウを持ったオンリーワン・ナンバーワン企業が数多く立地しており、伝統産業を始め、鉄鋼業や造船などのものづくり産業を中心に様々な産業が集積しています。これらを生かして、企業の連携や付加価値向上のための支援を行い、企業の稼ぐ力を強化します。また、備後圏域内での地域経済循環構造の形成をめざします。
- 企業を取り巻く環境は、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス感染症の影響により、先行き不透明感が高まっている状況です。デジタル化による生産性の向上や経営戦略の見直しなどを支援し、持続可能な経営につなげていきます。
- 地域経済を活性化するため、起業・創業支援や企業誘致に取り組みます。また、企業の技術やノウハウが喪失することがないように、事業承継にも取り組むことで、企業の新陳代謝を促します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

企業の経営力強化

- 官民連携による企業のデジタル化の推進
- デジタル技術を活用するものづくり人材の育成
- 企業の危機管理体制の強化

起業・創業支援や企業誘致の促進

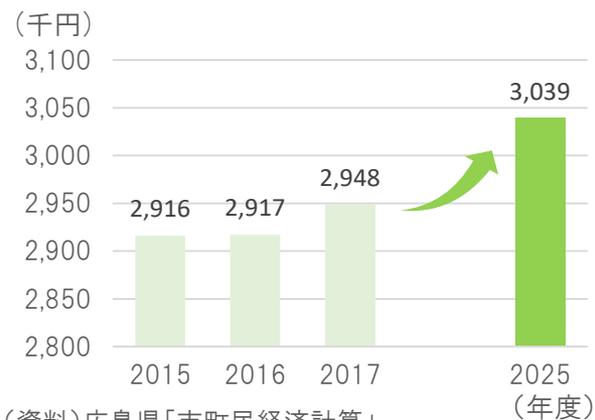
- 起業・創業支援
- 福山北産業団地第2期事業の推進(再掲)
- 事業承継支援
- 成長産業などの企業誘致の促進
- 本市への本社機能の誘致や拠点分散化の促進

地域経済循環構造の形成

- 地域商社の構築
- 地域資源活用の促進

【目標指標】

市民一人当たりの分配所得

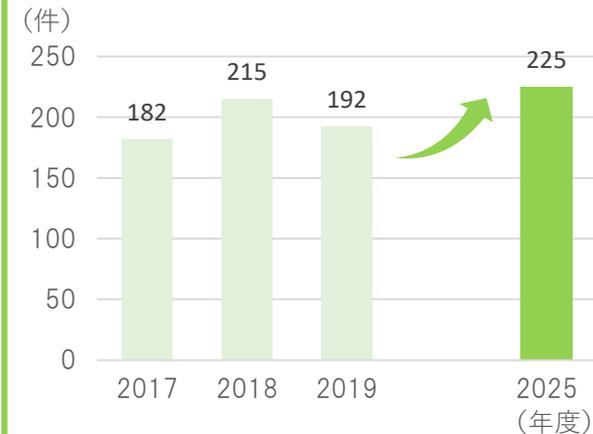


(資料)広島県「市町民経済計算」
(2025年度目標値は福山市作成)

びんごデジタルラボに参画する 市内企業数

2025年度までに
累計150社

創業件数



(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【Fuku-Bizでの相談支援】



【備中備後ジャパニデニムの海外出品】

【主な関連計画】・福山市産業振興ビジョン

3-2 多様な働き方と新たな人の流れの創出

【目標とする姿】 誰もがやりがいをもって安心して働き、活躍している

【現状認識と対策】

- 本市の中小企業においては、生産年齢人口の減少や雇用のミスマッチなどから人材不足の状況が続いています。生産年齢人口については、今後10年間で約4,500人減少すると予測されており、人材不足が更に拡大していくおそれがあります。
- 若い世代が仕事と子育て・介護を両立できるよう、テレワークの導入など市内企業の働き方改革の促進に向け、企業の経営者層や従業員の意識改革に取り組みます。また、兼業・副業やワーケーションなど新たな働き方の促進により、都市圏から地方への人の流れを創出し、定着させていきます。
- UIJターンによる転職支援など若者の地元定着に向けた取組を強化していくとともに、女性や高齢者、障がい者、外国人住民などの幅広い人材の活躍を支援していきます。
- 学生の職業観の醸成や学生と企業とのマッチング機会を充実し、雇用のミスマッチの解消を図ります。

【目標達成のための方向性と主な取組】

多様な働き方による人材の確保

- 働き方改革や職場の意識改革の促進
- デジタル技術の活用によるテレワークなどの導入促進
- 兼業・副業やワーケーションなどによる高度人材等の確保
- 企業の健康経営の促進

幅広い人材の活躍支援

- 若者の雇用・地元定着の促進
- 女性の活躍支援
- 障がい者・高齢者の就労支援
- 外国人雇用の受入環境整備
- 就職氷河期世代の活躍支援

企業が求める人材の確保

- UIJターンによる転職の支援
- デジタル人材の育成やリカレント教育※の推進(再掲)
- キャリア教育の推進(再掲)

※ 社会人に対して、学校教育の修了後、一旦社会に出た後に行われる教育のこと。

【目標指標】

ふくやまワーク・ライフ・バランス 認定事業者数



(資料)福山市資料

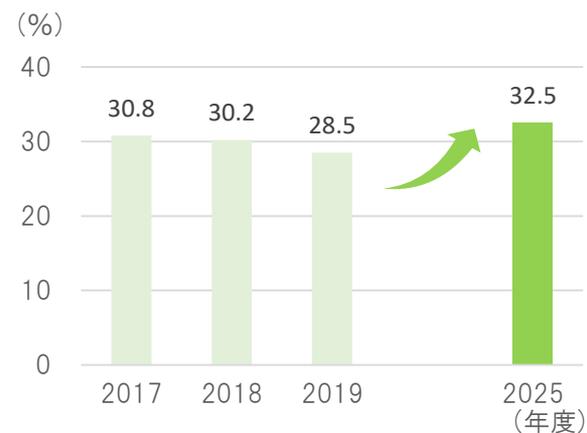
採用面接をオンラインで行う 企業の割合

2020年度: 21.7%

2025年度: 70.0%

(資料)福山地方雇用対策協議会資料
(2025年度目標値は福山市作成)

市内大学卒業生の地元就職率



(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【テレワーク】



【オンラインによる企業説明会】

3-3 農林水産業の振興

【目標とする姿】 農林水産業の稼ぐ力を高め、美しく活力ある農山漁村地域が継承されている

【現状認識と対策】

- 担い手の高齢化や後継者が不足している中、生産性が高く持続可能な農林水産業の確立に向け、農業・林業・水産業といった一次産業全体に活力を与えるための戦略的な取組が求められています。デジタル技術の活用による生産性の向上や企業参入を促進するなど、担い手の育成・確保のための取組を進めます。
- 収益強化のため、ブランド化や6次産業化により、全国・海外を視野に積極的な販路拡大に取り組みます。
- 多面的機能を有する里山・里地・里海を持続可能なものとするため、農地や森林、水産資源などを維持・保全するとともに、地産地消の推進や地域資源を活用した体験・交流などの実施により、農山漁村地域の活性化を進めます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

生産性の向上と担い手の育成・確保

- 経営基盤の強化支援
- スマート農業技術の導入支援
- 体験を通じた多様な担い手の育成・確保
- 異業種企業の農業参入の促進

農林水産物の販路拡大とブランド化の推進

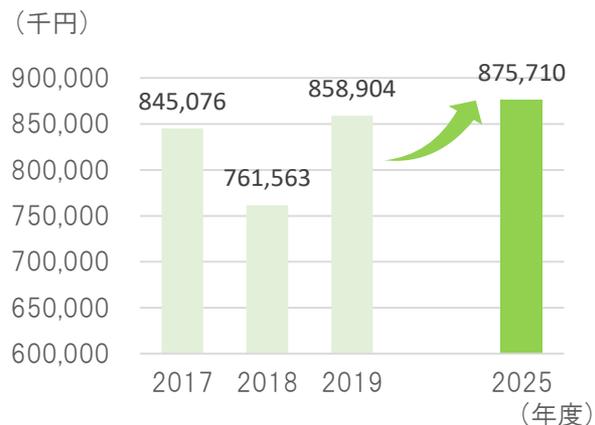
- 農林水産物の安定供給と販路拡大への支援
- 6次産業化による新商品の開発支援
- 農水産物などの新たなブランド価値の創造

農山漁村地域の活性化

- 里山・里地・里海の保全活動の推進
- 森林整備の推進
- 耕作放棄地対策の推進
- 地域資源を活用した体験型ツーリズムの促進
- デジタル技術を活用した有害鳥獣対策
- 産直市の充実や学校給食への市内産農産物の活用

【目標指標】

青果物・水産物の 市内生産・漁獲流通額



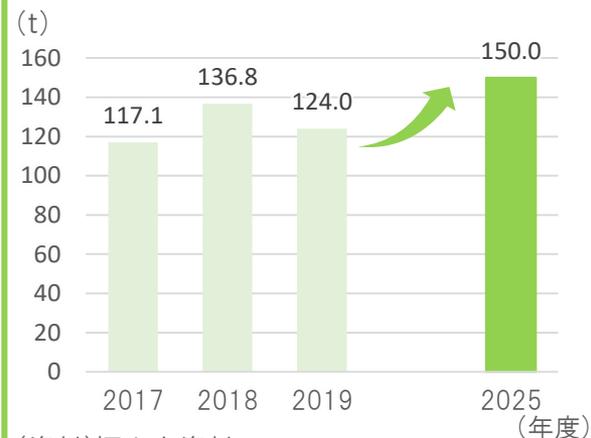
(資料)福山市資料

森林整備面積 (公益的機能の維持増進)



(資料)福山市資料

学校給食への市内産農産物の 使用量



(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【担い手研修】



【備後圏域のワイン】

- 【主な関連計画】
- ・福山市農業振興ビジョン
 - ・福山農業振興地域整備計画
 - ・福山市水産振興ビジョン

- ・福山市森林整備計画
- ・第3次福山市地産地消促進計画

3-4 都市基盤の強化

【目標とする姿】 地域経済や市民生活を支える都市基盤が整備されている

【現状認識と対策】

- 国道2号を始めとする主要な幹線道路の慢性的な交通渋滞は、市民生活の安全性・利便性を低下させるだけでなく、経済的にも大きな損失をもたらしています。この慢性的な交通渋滞への対応に加えて、災害時におけるダブルネットワークの構築に向け、幹線道路網の早期整備を国・県と共に進めます。
- 国際バルク戦略港湾である福山港は、備後圏域における国際物流拠点です。地域産業の国際競争力を高めるため、福山港の機能強化を国・県と共に進めます。
- 市内外の企業の投資の受け皿として、成長産業などが集積する産業団地の造成を着実に進め、備後圏域の経済の活性化と雇用の創出につなげます。
- 今後、更新時期を迎える道路施設が増大することから、中長期的な視点に立ち、効率的かつ効果的な維持管理を行います。

【目標達成のための方向性と主な取組】

交流・物流ネットワーク機能の強化

- ・ 福山道路や福山沼隈道路、福山西環状線、瀬戸連絡線などの早期整備
- ・ 福山道路(未事業化区間)などの早期事業化
- ・ 福山港のふ頭再編改良事業による機能強化

成長産業などの受け皿整備

- ・ 福山北産業団地第2期事業の推進

予防保全型の老朽化対策の推進

- ・ 予防保全による道路施設の維持管理

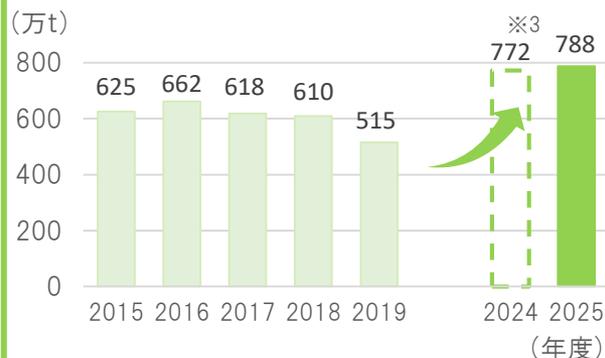
【目標指標】

国道2号交通量



(資料)国土交通省「全国道路・街路交通情勢調査」(平成27年度),「一般国道2号 福山道路事業再評価」(平成25年)より福山市作成

福山港鋼材(バルク)輸出量



(資料)国土交通省「福山港ふ頭再編改良事業説明資料(新規事業採択時評価)」より福山市作成

福山北産業団地第2期の造成・分譲

2023年度造成完了

2025年度までに分譲5件

- ※1 福山郵便局前交差点～赤坂バイパス早戸ランプ交差点区間の平均交通量
- ※2 福山道路(事業化区間)などの整備が完了した場合の並行する国道2号の将来予測交通量
- ※3 2015年度実績を基準とした2024年度推計

【達成をめざすSDGs】



【国道2号の渋滞】



【福山港】

3-5 防災・減災の推進

【目標とする姿】 自然災害への備えなど危機管理が万全で、市民の防災意識が高まっている

【現状認識と対策】

- 激甚化・頻発化する豪雨・台風や切迫する大規模地震などの自然災害への備えを万全にし、市民の生命と財産を守るため、ハード・ソフト一体となった取組を強力に推進します。
- 抜本的な浸水対策を始め、ため池の安全対策や公共施設の耐震化など、災害に屈しない強靱なインフラ整備を計画的に進めていきます。
- 災害時には、公助だけでなく、自助・共助の観点も重要となるため、地域防災力の強化や市民の防災意識の変革に取り組むとともに、デジタル技術の活用などによる効率的かつ効果的な危機管理を推進します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

抜本的な浸水対策の推進

- 河川などの改修
- 河川への排水機の整備
- 雨水幹線・雨水ポンプ場の整備
- 河川などの適切な維持管理

災害に屈しない強靱なインフラ整備などの促進

- ため池の安全対策の強化
- 公共施設の耐震化や老朽化対策を踏まえた再構築
- 建築物の耐震化の促進
- 大規模災害に備えた道路・橋りょうなどの防災・減災対策の推進
- 市役所本庁舎の防災機能の強化
- デジタル技術を活用した効果的な災害対応

地域防災力の強化

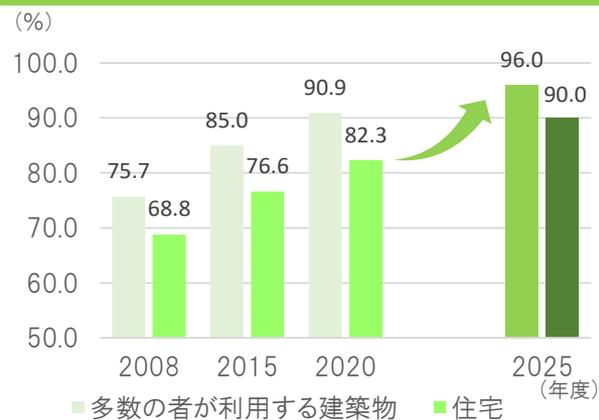
- 防災リーダーなどの人材育成
- 自主防災組織の充実などによる共助の強化
- 総合防災訓練の実施による防災力の向上
- 企業の危機管理体制の強化(再掲)

迅速な避難行動につながる市民の防災意識の変革

- マイタイムラインの作成などによる家庭での備えの充実
- 市民に伝わるきめ細かな防災情報の発信

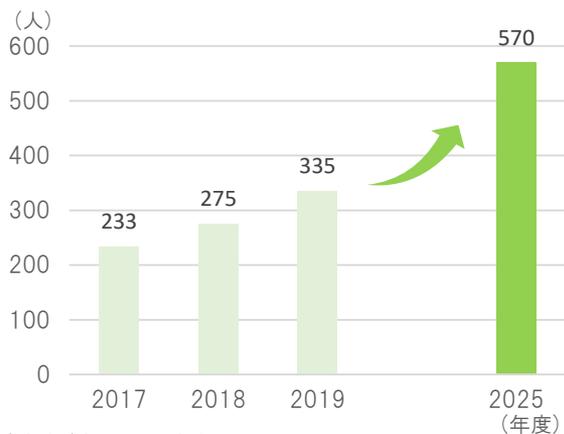
【目標指標】

建築物の耐震化率



(資料)福山市資料

防災リーダーの登録者数



(資料)福山市資料

総合防災訓練の参加人数



(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【芦田川堤防浸透対策】



【総合防災訓練】

- 【主な関連計画】
- ・福山市強靱化地域計画
 - ・福山市域における浸水対策協議会 浸水対策に係る行程表
 - ・福山市立学校施設耐震化推進計画

- ・福山市地域防災計画
- ・福山市耐震改修促進計画(第3期計画)

3-6 安心・安全な暮らしの確保

【目標とする姿】 誰もが安心・安全で快適に暮らしている

【現状認識と対策】

- 高齢者の巻き込まれる特殊詐欺などの犯罪や交通事故，消費者トラブルが依然として多い状況にあります。そのため，地域ぐるみの防犯活動・交通安全活動，行政による相談窓口を充実することで，正しい知識の普及・啓発に取り組みます。
- 災害や高齢化に伴う救急出場件数が増加傾向にあります。防火・防災意識や応急手当の普及啓発を図るとともに，救急及び救助の資格者を養成し，迅速かつ的確に対処できる消防，救急・救助体制の充実に取り組みます。
- 暮らしを支える移動手段を確保するため，デジタル技術を取り入れつつ，地域交通サービスを充実させます。
- インフラの老朽化対策や空き家・空き地対策の推進などにより，誰もが快適に生活できる環境の整備に取り組みます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

交通事故，消費者トラブルの未然防止

- ・ 交通安全・防犯意識の啓発
- ・ 消費者相談窓口の充実

消防，救急・救助体制の充実

- ・ 消防力の充実
- ・ 防火・防災や応急手当に関する教育の実施
- ・ 資格者の養成などによる救急・救助体制の充実

地域交通サービスの充実・スマート化

- ・ 持続可能な地域交通の維持・確保
- ・ オンデマンド交通^{※1}やMaaS^{※2}(医療，買物等)などのモビリティサービスの実装

快適な生活環境の整備

- ・ 安心・安全で快適な上下水道施設の整備
- ・ ユニバーサルデザイン^{※3}の推進
- ・ 安全な道路空間の確保
- ・ 公園・緑地の整備
- ・ 空き家・空き地対策の推進

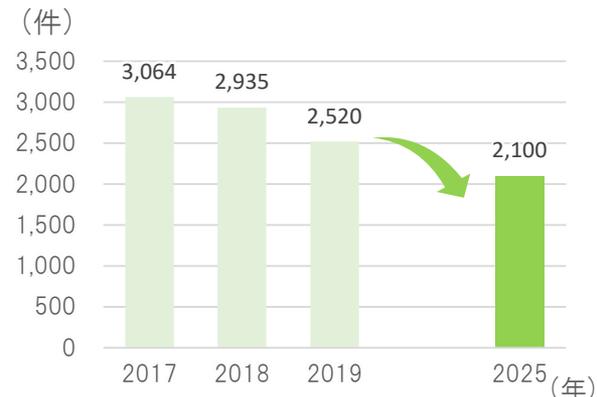
※1 利用者の要求に応じて路線・ダイヤを柔軟に変えながら運行する公共交通システムのこと。

※2 Mobility as a Serviceの略。出発地から目的地までの移動ニーズに対して最適な移動手段を切れ目なく提供するなど，移動を単なる手段としてではなく，利用者にとっての一元的なサービスとして捉える概念のこと。

※3 年齢・性別・国籍・身体状況など人々が持つ様々な個性や違いに関わらず，誰もが利用しやすく暮らしやすい社会となるように，まちやもの，仕組みを提供していく考え方のこと。

【目標指標】

刑法犯罪認知件数



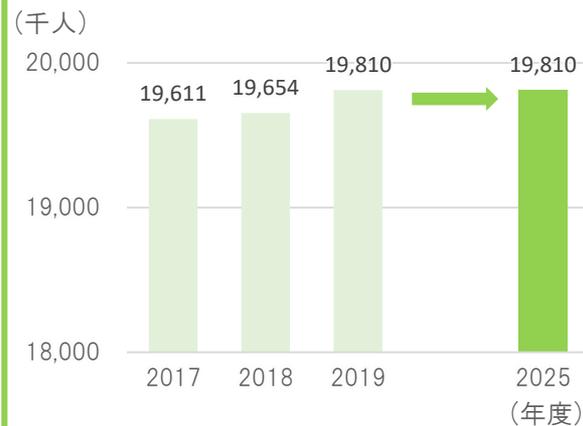
(資料)広島県警察「市区町犯罪発生等状況統計」
(2025年目標値は福山市作成)

救急・救助資格者数



(資料)福山地区消防組合資料

公共交通機関利用者数



(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【救急・救助訓練】



【オンデマンド乗合タクシー】

【主な関連計画】
 ・第10次福山市交通安全計画
 ・福山・笠岡地域公共交通網形成計画
 ・福山市上下水道事業中長期ビジョン(経営戦略)

・福山市道路総合計画
 ・福山市空家等対策計画

3-7 環境にやさしいまちづくり

【目標とする姿】 低炭素・循環型社会が構築され、豊かな自然と快適な暮らしが調和されている

【現状認識と対策】

- 温室効果ガス排出量の増加など環境問題が国際的に深刻化している中で、ESG投資※など企業の環境面への取組を投資の判断材料の一つとする動きが拡大しています。
- 2013年度から2016年度までの本市の温室効果ガスの排出量は、横ばい傾向となっています。福山未来エナジー(株)との連携により、太陽光発電や廃棄物発電などを活用した再生可能エネルギーの地産地消を推進し、温室効果ガスの排出抑制に取り組みます。
- 3Rの推進によるごみ排出量の削減や事業活動によるばい煙などの排出抑制に取り組みます。
- 環境問題に対する市民関心度が低下傾向にあるため、次世代エネルギーパークを中心とした環境学習や環境教育を充実します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

低炭素・循環型社会の構築

- 再生可能エネルギーの地産地消の推進（福山未来エナジー(株)との連携）
- デジタル化による温室効果ガス削減の推進
- 廃棄物の適正処理の推進
- 3R(リデュース・リユース・リサイクル)の推進
- 環境に配慮した次期ごみ処理施設の整備
- 食品ロス削減の推進

地域環境の保全

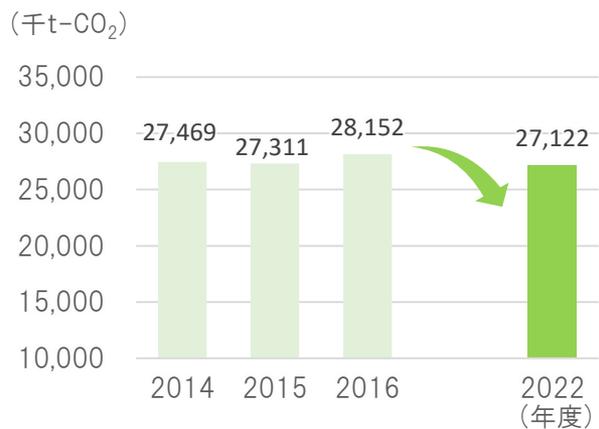
- 大気や水質などの環境保全の推進
- 里山・里地・里海の保全活動の推進(再掲)
- 森林整備の推進(再掲)

持続可能な社会を担う人づくり

- 環境について学び・触れ合う機会の充実

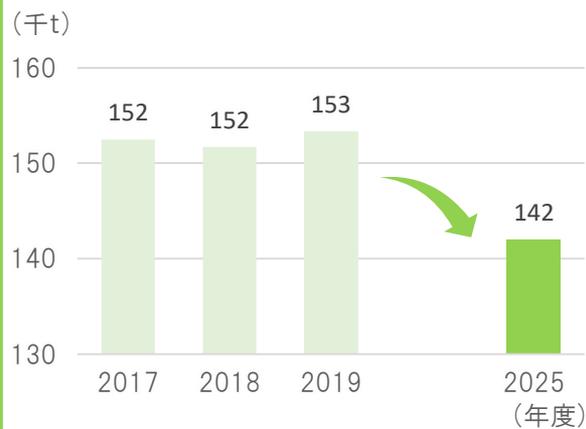
【目標指標】

温室効果ガスの排出量



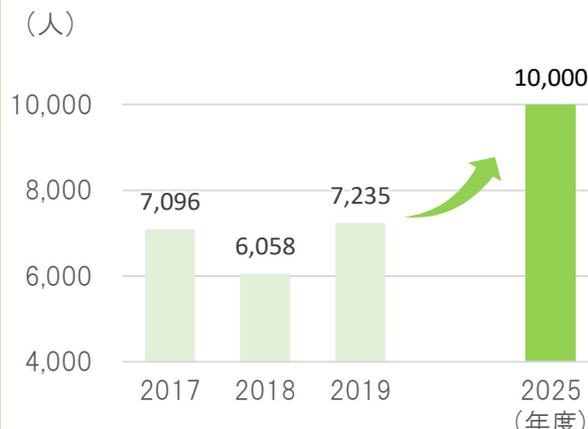
(資料)福山市資料

ごみの排出量



(資料)福山市資料

環境講座参加者数



(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【次期ごみ処理施設完成予定図】

※今後実施設計で変更となる場合があります。



【環境講座】

挑戦4 新たな価値を創出する人材育成と個性光る地域振興

柱

4-1 未来を切り拓く教育

4-2 多様性ある地域コミュニティづくり

4-1 未来を切り拓く教育

【目標とする姿】 未来に夢や希望を持ち、自ら学び育っている

【現状認識と対策】

- 変化の激しい社会に必要な「知識を活用し、協働して新たな価値観を生み出せる力」や「学びに向かう意欲」を身に付けるため、教育のデジタル化やSDGs達成に向けた教育課程の実施などにより、福山100NEN教育を推進し、「学びが面白い！」の深化による主体的・対話的な学びを実現します。
- 高等教育機関や企業との連携を強化し、デジタル化・グローバル化など新たな時代に必要となる知識・スキルを身に付けた人材の育成につなげます。
- 子どもが探求心や好奇心、想像力を身に付けるための体験・学びの場や地域のまちづくりに関わる人材を育成するための社会教育・生涯学習の場など、誰もが未来に夢や希望を持って学ぶことができる環境づくりに取り組みます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

福山100NEN教育の推進

- GIGAスクール構想※の推進
- 子ども一人一人の個性や発達段階に応じた学びの提供
- 安心・安全に学ぶことができる教育環境の充実
- 豊かな感性や創造性を育む文化・芸術などの体験活動の推進
- 学校規模・学校配置の適正化
- キャリア教育の推進

新たな時代に活躍する人材の育成

- 福山市立大学の機能強化
- デジタル人材の育成やリカレント教育の推進
- サテライトキャンパスの設置など市外大学との連携強化

社会教育・生涯学習の推進

- 子ども未来館構想の推進
- 交流館や公民館、図書館などの身近な場所での学習機会の充実

【目標指標】

学力の伸びた児童生徒の割合

2020年度:(2中学校区)
65.6%

2025年度:(市内全校)
75.6%

※ 市内全校の割合は2021年度から把握
(資料)福山市資料

「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」児童生徒の割合



交流館、公民館グループ・サークルの数



【達成をめざすSDGs】



【タブレットを活用した学習】



【生涯学習の推進】

- 【主な関連計画】
- ・第二次福山市教育振興基本計画
 - ・福山市小中一貫教育と学校教育環境に関する基本方針
 - ・福山市立学校施設耐震化推進計画

- ・福山市学校施設長寿命化計画
- ・福山市学校規模・学校配置の適正化計画(第1要件)

4-2 多様性ある地域コミュニティづくり

【目標とする姿】 **誰もが集い・支え合う持続可能なコミュニティが形成され、それぞれの地域が輝いている**

【現状認識と対策】

- 各地域の活力を高めるため、地域の資源・個性を生かした戦略的な地域づくりに取り組みます。
- 地方移住への関心の高まりを新たな人の流れにつなげていくため、二地域居住の推進など関係人口の創出に向けた取組を強化します。
- 地域の担い手不足が進む中、持続可能な地域コミュニティの形成に向けて、幅広い世代の住民や外部人材も含めた多様な主体が参画する地域づくりやデジタル技術の活用による地域活動の負担軽減に取り組みます。
- 様々な人権課題が存在していることから、市民一人一人の人権尊重の意識を高め、全ての人々が大切にされ、安心して暮らすことができる地域づくりに取り組みます。
- 市民生活を取り巻く社会環境の変化に伴いニーズが多様化していることから、様々な市民の交流を促進し、連携を強化するために、まちづくりの拠点の再構築に取り組みます。

【目標達成のための方向性と主な取組】

地域の個性に応じた取組の推進

- 地域特有の資源・個性を生かした地域づくり
- 二地域居住の推進など関係人口の創出・拡大
- 大学との連携による地域課題の解決

持続可能な地域コミュニティの形成

- 地域における新たな人材の発掘・育成
- デジタル技術を活用したまちづくりの推進
- 多様な主体の参画による地域づくり
- 光ファイバ網の整備

全ての人々が大切にされる人権文化が根付いたまちづくり

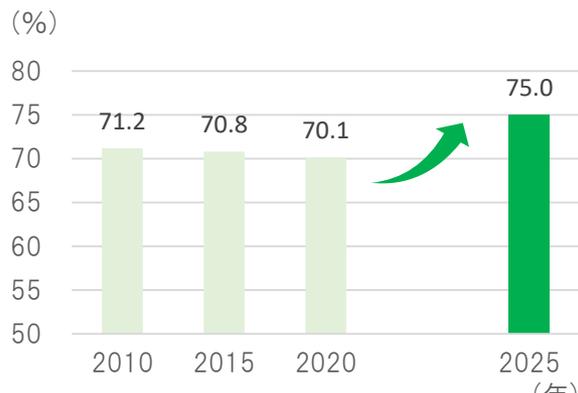
- 人権教育・人権啓発の推進
- 多文化共生, 国際交流の推進

まちづくりの拠点の再構築

- 地域住民の活動を支える交流館の整備
- まちづくり支援拠点施設の整備

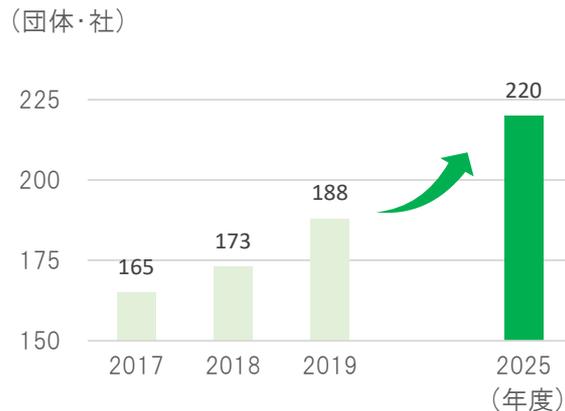
【目標指標】

まちづくりに関心がある市民の割合



(資料)福山市「福山市の新しいまちづくりに関する市民アンケート調査」

ボランティア・NPOなどの市民活動団体数 (まちづくりサポートセンター登録団体(企業)数)



(資料)福山市資料

地域のまちづくりの拠点となる 交流館数

2020年度: 3か所

2025年度: 13か所

(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【持続可能な地域コミュニティの形成に向けた検討】



【多様な主体が参加した地域活動】

【主な関連計画】 ・福山市協働のまちづくり指針
・福山市人権施策基本方針(改訂版)

・福山市公共施設等サービス再構築基本方針
・福山市地域交流施設等再整備基本方針

挑戦5 歴史・文化とスポーツによる新たな体験価値の創出

柱

5-1 歴史・文化の薫るまちづくり(福山城築城400年)

5-2 スポーツによるにぎわいづくり

5-1 歴史・文化の薫るまちづくり(福山城築城400年)

【目標とする姿】 福山らしい歴史・文化・芸術が大切に継承され、市民の誇りが醸成されている

【現状認識と対策】

- 日本遺産などの多様な評価を受けている鞆の浦を始め、2022年に築城400年を迎える福山城、国宝の明王院、特別史跡の廉塾、吉備津神社、砂留、そして伝統的な地域の祭りなど、歴史・文化資源に恵まれています。
- 貴重な歴史・文化資源を地域と共に適切に保存・活用するとともに、文化芸術活動を計画的に推進し、ふるさとへの市民の誇りと愛着を高めます。
- 鞆地区が有する歴史や伝統文化を次の世代に受け継ぐため、地域との協働により歴史的町並みの保存・活用に取り組みます。あわせて、地元住民の生活環境向上を図り、活力あるまちづくりを進めます。
- 世界バラ会議福山大会2025を通じて、戦後復興のシンボルであるばらのまちづくりの次世代への継承や市内外への発信を強化します。また、全世代がばらに親しむ機会を通じて、ローズマインドを福山の文化として根付かせるとともに、ばらの新たな価値や都市の魅力を共創します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

歴史・文化資源の保存と活用

- ・ 天守の外観復元や福山城博物館リニューアルなどの福山城築城400年関連事業の推進
- ・ ユニークベニューの開発・活用(再掲)
- ・ 歴史・文化資源の保存・磨き上げ・発信

文化・芸術活動の推進

- ・ ばらのまち福山国際音楽祭など上質な文化・芸術に触れる機会・環境の提供

鞆のまちづくり

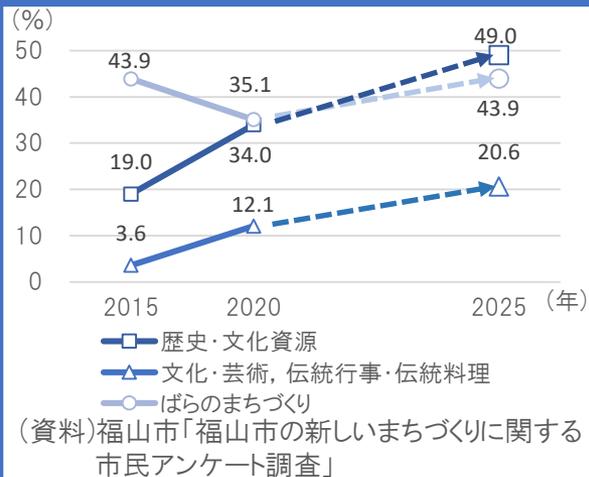
- ・ 町並み保存の推進
- ・ 東西交通・交流拠点の整備などによる再生・活性化
- ・ 日本遺産の魅力発信

世界バラ会議に向けたばらのまちづくり

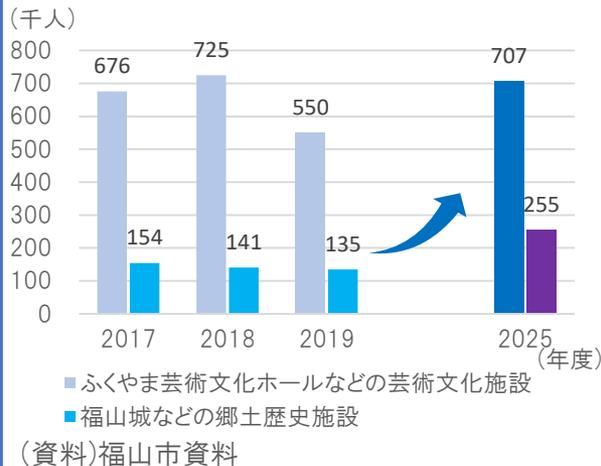
- ・ 幼少期からばらに親しむ機会を通じたローズマインドの醸成
- ・ 市民主体のばらのまちづくりへの支援
- ・ ばらのまちの魅力の磨き上げ・誘客プロモーションの実施

【目標指標】

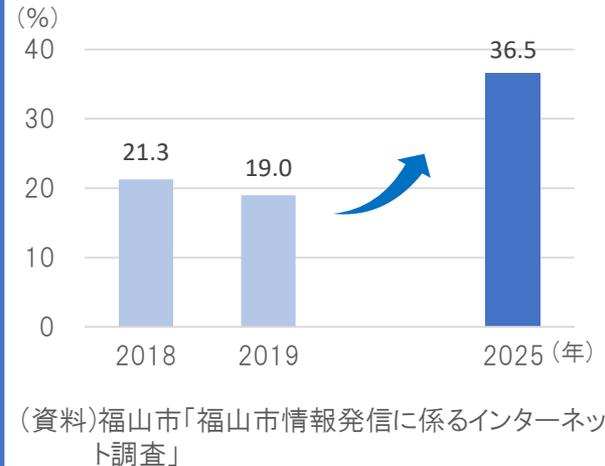
歴史・文化・芸術に誇りを感じる人の割合



文化施設などの利用者数



歴史・文化資源に関する市民の認知度



【達成をめざすSDGs】



【福山城天守北側鉄板張り完成予定図】



【ばらのまち福山国際音楽祭】

- 【主な関連計画】
- ・福山市歴史文化基本構想
 - ・史跡福山城跡保存活用計画
 - ・史跡福山城跡整備基本計画
 - ・福山城築城400年記念事業基本方針

- ・特別史跡廉塾ならびに菅茶山旧宅保存活用計画
- ・駒まちづくりビジョン
- ・福山市鞆町伝統的建造物群保存地区保存計画
- ・第20回世界バラ会議福山大会2025実施計画

5-2 スポーツによるにぎわいづくり

【目標とする姿】 **誰もがスポーツを気軽に楽しみ、スポーツを通じてにぎわいが生まれている**

【現状認識と対策】

- 本市の週1回以上のスポーツ実施率は全国と比較して低い状況にあるため、ライフステージや個人の健康状態などに応じて気軽にスポーツを楽しめる習慣・きっかけづくりに取り組みます。
- 競技力の向上やアスリートのセカンドキャリア形成に向けた、指導者の養成と確保に取り組みます。
- 市民がプロスポーツなどの観戦を楽しめるよう、にぎわいの創出につながるイベントの誘致・開催を推進します。
- 市内には老朽化したスポーツ施設が多くあるため、民間企業のノウハウも取り入れた施設の再編・整備や管理・運営により、魅力ある施設を提供します。

【目標達成のための方向性と主な取組】

ライフステージに応じたスポーツの実施促進

- 情報発信の強化によるスポーツのきっかけづくり
- 企業などと連携したスポーツの促進
- スポーツによる健康づくり

ジュニア世代を中心とした競技力の向上

- デジタル技術・データの活用などの普及による選手・指導者のスキルアップ
- プロ選手などトップレベルのプレーに触れる機会の創出

プロスポーツ大会の誘致などによるにぎわいの創出

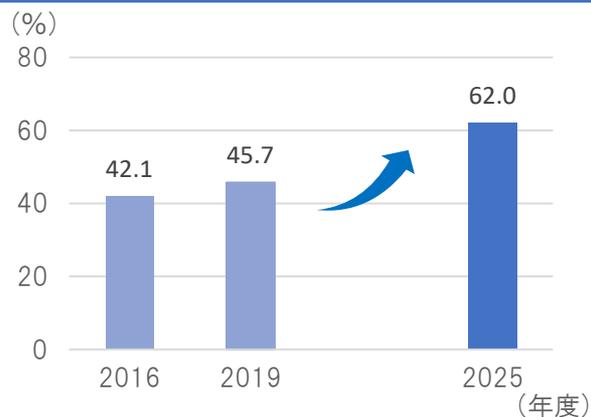
- プロスポーツ大会などの誘致
- 子育て世帯のスポーツ参加促進

魅力的なスポーツ拠点の創出

- 拠点化や長寿命化などスポーツ施設の再編
- 民間企業のノウハウを取り入れた施設の設置・管理・運営

【目標指標】

週1回以上のスポーツ実施率

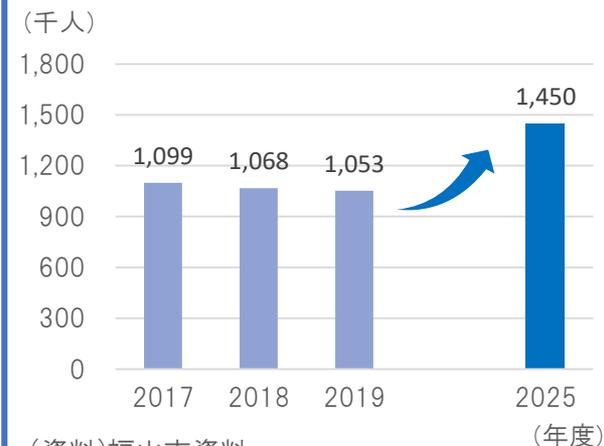


(資料)福山市資料

スポーツ施設の再編

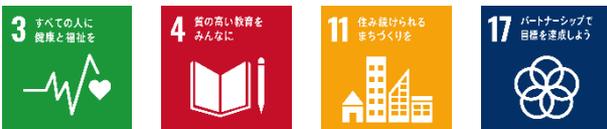
2024年度までに
備後圏域の拠点となる
庭球場・屋内水泳場の
完成

市スポーツ施設延べ利用者数



(資料)福山市資料

【達成をめざすSDGs】



【スポーツによるにぎわいの創出】

【主な関連計画】
・福山市スポーツ推進計画
・福山市社会体育施設基本計画

・福山市スポーツ施設再編方針(庭球場・水泳場)

2021年度

東京
オリンピック

2022年度

2023年度

2024年度

2025年度

大阪・関西
万博

挑戦1 福山駅周辺の再生加速とグローバル都市の創造

- 1-1 □ 駅北ロスクエア広場 完成予定
- 駅前広場の基本方針の策定
- 三之丸町地区優良建築物等整備完了予定
- エフピコRiMiリニューアルオープン予定
- 史跡・名勝等案内標識の多言語化

○ 世界パラ会議福山大会の開催

挑戦2 希望の子育てと寛容で健やかな社会の実現

- 2-1 ○ 福山ネウボラの強化(子ども家庭総合支援拠点の設置, 子育て支援へのデジタル技術活用の充実)
- 2-2 ○ フレイル予防対策の強化(デジタル技術を活用した健康状態の見える化)
- 2-3 ○ 市民病院の機能強化(小児救急医療拠点病院の指定, 総合周産期母子医療センターの指定に向けた機能強化)
- 市民病院本館の増改築工事に着手



挑戦3 人や企業が安心・安全に活躍できる都市環境の構築

- 3-4 □ 福山道路・福山沼隈道路等整備促進
- 福山沼隈道路(暫定2車線) 完成予定(県)
- 福山港ふ頭再編改良(箕沖地区) 完了予定(国・県)
- 福山港ふ頭再編改良(箕島地区) 完了予定(国・県)
- 福山北産業団地 造成完了予定
- 福山北産業団地 公募開始
- おおむね5年間の抜本的な浸水対策 完了予定
- 次期ごみ処理施設 完成予定
- 手城川流域内水排除対策のためのポンプ場 完成予定



挑戦4 新たな価値を創出する人材育成と個性光る地域振興

- 4-1 ○ GIGAスクール構想による教育の充実
- EdTech※1などの導入
- イエナプラン教育校※2, 特認校※3の開校予定
- 市立小中学校施設耐震化 完了予定
- 市立小中学校図書館整備 完了予定
- 市立大学新キャンパス 完成予定
- (仮称)子ども未来館基本構想の策定
- (仮称)子ども未来館基本設計予定
- 4-2 ○ 地域戦略の策定
- 光ファイバ網の全域整備 完了予定
- 新たな地域コミュニティ政策の推進
- 市民参画センター・老人大学などを集約した複合施設 完成予定

※1 教育におけるAI, ビッグデータなどの様々な新しいテクノロジーを活用した取組のこと。
 ※2 1~3年生, 4~6年生の異年齢グループで, 自立・協働・対話など多様な学びを実践する小学校のこと。
 ※3 一人一人に応じた学びや体験的な学習を重視した教育活動を行う小中一体型の学校のこと。



挑戦5 歴史・文化とスポーツによる新たな体験価値の創出

- 5-1 ○ 福山国際音楽祭の充実
- ○ 福山城築城400年
- ・天守の外観復元, 博物館リニューアル など
- ○ (仮称)福山城保存活用プロジェクト
- NEXT400に着手
- ・二之丸西側上段石垣復元, 福山城の利活用 など
- 美術館プロムナードライトアップ
- 福山城天守ライトアップ
- 鞆東西交通・交流拠点整備推進
- 鞆側パイパス 完成予定(県)
- 鞆平地区ふれあい広場 完成予定
- 鞆町並み保存拠点施設 完成予定
- スポーツ施設の再編
- ・庭球場(竹ヶ端運動公園) 完成予定
- ・屋内水泳場(緑町公園) 完成予定



福山市民憲章

私たちは 恵まれた自然の中に育った 福山の市民です

私たちの福山市は たくましい市民の不屈の精神によって築かれ

大きく発展しつづけている希望の町です

私たちは 福山市民であることに誇りと責任をもち お互いのしあわせをねがい

よい市民となるために市民憲章を定め 心のよりどころとします

- 1 心に太陽をもち 胸をはって元気に働きましょう
- 1 小さな親切を 勇気をもって行いましょう
- 1 きまりを守り よい習慣をつくりましょう
- 1 子どもたちのために 明るい家庭と美しい町をつくりましょう
- 1 文化を育て 健康で平和な社会を築きましょう
- 1 人権を尊重し 差別のない人間関係をつくりましょう

制定 1966年(昭和41年)11月3日 改定 1983年(昭和58年)4月1日

市章



制定 1917年(大正6年)7月1日